国際医療福祉大学　2015年1月30日発行　学校法人国際医療福祉大学　☎0287-24-3000
http://www.iuhw.ac.jp/

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

International University of Health and Welfare

vol. 100
January 2015

新春のごあいさつ
高木邦格理事長
北島政樹学長・矢﨑義雄総長・天野隆弘大学院長

広報誌でたどる本学20年の歩み

卒業研究発表会

学生&企業研究発表会

福島県の沿岸、富岡町の方々が生活している郡山市内の仮設住宅。大田原市無形民俗文化財の福原餅つき唄保存会の皆さんといっしょに訪問し、餅つき実演、餅配布、豚汁配布、足湯・手のひらマッサージのボランティア活動を行った。

国際医療福祉大学・高邦会グループ理事長 高木 邦格

二〇一五年を迎え、皆様にご挨拶を申し上げます。

国際医療福祉大学は本年、二〇周年を迎えます。日本初の医療と福祉の総合大学として開学以来、卒業生数は一万六千人を超えました。大変喜ばしいことに、各種メディアの就職率ランキングでは、医療系私立大学として四年連続全国第一位を獲得しております。一〇〇%という本学の就職率は、全国で活躍しているたくさんの卒業生や国家試験の合格率、質の高い教育力などをご評価いただき、多くの求人をお寄せいただいた賜物とあらためて感謝申し上げます。

昨年度、小田原キャンパスでは、国家試験において看護師・理学療法士・作業療法士の全学科で一〇〇%の合格率を達成いたしました。本年四月からは、神奈川県の看護師不足対策として、看護学科の入学定員を五〇名から八〇名に増やします。それに先立ち、昨年よりグラウンドを新たに整備し、すでに使用を開始しております。また、二〇一六年四月からの使用開始をめざして新校舎や食堂も建設予定で、今後ますます学習環境と学生生活が充実いたします。

二〇一六年には、千葉県成田市に、二学部五学科(成田看護学部／看護学科、成田保健医療学部／理学療法学科・作業療法学科・言語聴覚学科・医学検査学科)の開設を予定しております。千葉県における医療福祉専門職不足の解消に貢献するとともに、成田という地の利を生かしながらグローバルに活躍できる専門職を育成いたします。また、医学部の設置や関連施設の整備、医療産業の誘致、産官学の連携を行うことで国の経済や国際貢献に寄与する、国家戦略特区の「国際医療学園都市構想」を成田市と提案しておりますが、今後も引き続き関係者の理解を得ながら実現をめざしてまいります。

また、昨年、福岡県大川キャンパスの隣接地に、グループ関連施設で実習を行う学生や海外からの研修生のための宿泊施設「大川リバーサイドホテル」が完成し、利用者から大変好評をいただいております。さらに、国際医療福祉大学・高邦会グループ百周年における地域貢献事業の一環として、四百席規模の映画館・コンベンションホール、カフェや書店、病児保育施設や在宅療養支援診療所などを併設した「おおかわ地域交流プラザ」が、本年二六月にオープンいたします。

国際化という点において、本学は開学以来、東南アジアを中心とした開発途上国に対する医療・教育援助を視野に入れ、各国の医療福祉分野においてリーダーとなりうる人材育成に力を入れてまいりました。学費から滞在費・生活費まで支援するＩＵＨＷ奨学金制度を一〇年以上にわたって実施しておりますが、現在ミャンマーから七名の留学生を受け入れております。二〇一三年にはミャンマーの国立医療系三大学であるヤンゴン第一医科大学・ヤンゴン看護大学・ヤンゴン医療技術大学と学術交流協定を結び、昨年七月には同大の三学長と同国の保健省副大臣を招いて、国際医療シンポジウムを開催いたしました。今後、ミャンマーの作業療法・言語聴覚分野における制度創設への協力や新ヤンゴン総合病院へ遠隔診断システムを活用した研修センターの設立など、現地からの研修員受け入れと合わせて積極的に推し進めてまいります。また、ベトナム・チョーライ病院からの協力要請による日本式の人間ドックセンター設立に向け、今年度中には現地からの研修員を受け入れ、共同運営に協力してまいります。

附属・関連施設では、栃木県の国際医療福祉大学病院で、昨年七月にＡ棟の増築が完成し、最新型のリニアックとＰＥＴ・ＣＴ室を導入、栃木県の県北地域で唯一、ＰＥＴ・ＣＴ検査が可能な施設として、従来以上に迅速かつ精度の高い放射線診断をご提供できるようになりました。

東京都の山王病院では、隣接地に新棟が完成いたしました。地下二階・地上五階建ての新棟は、一九床の新たな産科施設「山王バースセンター」やＮＩＣＵ・ＩＣＵを整備、手術室も二室増設して手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を導入し、より身体に負担の少ない低侵襲手術を行えるような態勢を整えるなど、これまで以上に充実した設備で本年三月に開設する予定です。山王バースセンターでは、より自然に近い形の分娩を中心にしながら、不育診療外来や胎児ドック外来も新設し、これまで以上に周産期医療に力を入れてまいります。さらに、手術室・外来診察室の増設やリハビリテーション室の移設拡充などにより、医療技術の高度化・専門化に対応したより質の高い医療とサービスを提供してまいります。

九州地区の高木病院につきましては、昨年八月に八階建ての急性期棟が完成いたしました。手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を設置する手術室の増設、救急外来の拡充、ＨＣＵの新設など、急性期分野やリハビリテーション部門の拡充を図りながら、高度ながん治療や緩和ケア医療に貢献しております。

本年もさまざまな国内外のプロジェクトがございますが、今後もグループの教職員一丸となって取り組んでまいります。

最後に、新しい一年が皆様方にとって充実したよき年でありますことを祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

国際医療福祉大学学長 北島 政樹

新年を迎えるに際し、一言ご挨拶を申し上げます。

第二次安倍内閣発足後、昨年末には、消費税増税やデフレ対策など、その成果を国民に問うために衆議院の解散を決め、再び国民の支持を得ました。その中で本学とも関連する成長戦略の一つ「国家戦略特区の設置」は、成田市が以前から「医療産業集積構想」を策定し、将来ビジョンを視野に入れたグローバル化時代の人材育成を軸として、医学部の誘致を基本的目標としておりました。成田市が策定した構想が本学の理念と合致し、まず両者の合意事項として二学部五学科（看護・理学療法・作業療法・言語聴覚・医学検査）について、二〇一六年四月の開設をめざしております。

さらに本学は、医療・創薬拠点や医療分野におけるイノベーションの創出、および医学部の新設を東京圏国家戦略特別区域会議に提案いたしました。昨年一二月には、東京圏特区の成田市分科会を作る方針も確認されました。本学では二〇〇九年より国際基準に則した医学教育の検討を開始し、また、先進的な海外の医学教育の視察など行ってまいりました。

さて、昨年は本学の国際協力活動として、専門性の高い教員を海外に派遣し、研究機関と協力して国際シンポジウムを開催するなど、国際化を推進してまいりました。七月に開催されたミャンマーとのシンポジウムでは、医療産業および学術関係者が参加し、ミャンマー保健省副大臣および特命全権大使とともに、ヤンゴン第一医科大学、ヤンゴン看護大学、ヤンゴン医療技術大学の学長出席のもと、同国の保健医療環境改善や国際医療協力について討論が行われました。

一方、学内に目を向けると、二月に教員の診断・治療機器のシーズの製品化をめざし、企業との「第五回技術情報交流会」が開催され、リハビリテーション補助装置、介護福祉用見守り支援機器、教育用触診シミュレータなど四件が特許申請、製品化されました。

また、大学評価基準として文部・厚労科研費の獲得のため、研究協力センターにおいて、研究者に応募課題の啓発を積極的に行い、また、審査員・申請者の立場に立った説明会を毎年開催してまいりました。その結果、文部科研費新規採択数が前年比四七%増加し、私立五六九大学中、前年の九三位から六八位と成果を示しました。科研費の申請に先立って、本学では文科省の「研究費の不正防止」「研究活動の不正行為」の二ガイドラインの内容を十分に勘案し、本学の規定を大幅に改定いたしました。

このように研究費の応募を適切化したうえで、①教育の質的転換、②地域発展、③産業界・他大学等との連携、④グローバル化、の四つのタイプが設けられた「私立大学改革総合支援事業」に応募いたしました。本事業は、全私立大学の八〇%にあたる七四五校の申請があり、そのうち四タイプがすべて選定された大学は、本学を含めて八大学のみであることは自負するものであります。

縦割り的な要素のあった各キャンパスの研究成果を共有し、質向上をめざし創設された「国際医療福祉大学学会」も第四回を迎えました。学会を介して各キャンパスの教育・研究・診療の情報共有が密になり、教職員の研究意欲や協働が高揚したことは否定し得ない事実であり、各キャンパスの統合理念が学会を中心に確立されました。二〇〇九年七月、学長への就任と同時に私が掲げた〝各キャンパスが一堂に会す〟という目標が達成されたと充実感を感じております。

こうした大学の変革をめざし、『社会に開かれた大学』の実現のため、「第五回キッズスクール」を開催しましたが、小中学生の参加者全員が将来の医療福祉職を想定し、実技に励んでいる姿が大変印象的でした。特に第一回の参加者が昨年、本学の放射線・情報科学科に入学したことは大きな喜びであります。「第四回幸齢者スクール」では、セルフケアの重要性を実地体験から学んでいただきました。また、「第五回高校生作文コンテスト」においては、一六八九件の応募作品から医療福祉に対する理解と、自己体験から将来の医療福祉の専門職をめざす意気込みが感じられ、望外の喜びでありました。

一〇月には、二日間にわたり「認証評価実地調査」があり、書面審査の分析状況を踏まえての教職員・学生との面談や教育現場の状況視察がありましたが、事前の適切な準備により大過なく終了することができました。

さて、本年は大学創立二〇周年を迎えますが、『自我作古』(我より古(いにしえ)を作(な)す　～予想される困難や試練に耐えて開拓に当たる～)という言葉を教職員共々心に刻み、本学の発展のため一歩を踏み出す所存であります。

International University of Health and Welfare
IUHW vol.100 January 2015

CONTENTS

特集1 新春のごあいさつ
2 ・国際医療福祉大学・高邦会グループ理事長 高木 邦格
3 ・国際医療福祉大学学長 北島 政樹
4 ・国際医療福祉大学総長 矢﨑 義雄
・国際医療福祉大学大学院長 天野 隆弘

100号特別企画「広報誌でたどる本学20年の歩み」
6 ① 理事長・総長・学長・大学院長
8 ② キャンパス開設
10 ③ 附属・関連施設
12 ④ 国際協力活動

14 特集2 卒業研究発表会
15 特集3 学生＆企業研究発表会

キャンパスレポート
16 小田原キャンパス
17 福岡キャンパス
18 大川キャンパス
19 大学院／塩谷看護専門学校

施設インフォメーション　新春のごあいさつ
20 国際医療福祉大学病院 病院長　蘇原 泰則
国際医療福祉大学塩谷病院 病院長　早川 正道
国際医療福祉大学三田病院 病院長　小川 聡
国際医療福祉大学熱海病院 病院長　横田 俊平
21 国際医療福祉リハビリテーションセンター センター長　下泉 秀夫
新宿けやき園 施設長　杉原 素子
山王病院 病院長　堤 治
化学療法研究所附属病院 病院長　西野 卓
高木病院 病院長　岩坂 剛

トピックス
22〜25 ベトナムへの医療協力を積極的に推進／元培醫事科技大学50周年記念行事に出席／ミャンマーでの遠隔画像診断・研修センター構築へ向けた実験が成功／ミャンマーの教育省副大臣、ヤンゴン外国語大学学長訪問・タイのクリスチャン大学学長訪問／本大学院生がESDユネスコ世界会議に学生ボランティアとして参加／大学院生の林翔太さんが日本人間工学学会で優秀研究発表奨励賞を受賞／看護学科「学外ゼミナール」開催／医療福祉・マネジメント学科「3年次病院実習報告会」開催／基礎医学研究センター「動物慰霊祭」開催／「ポーランド-日本医療技術セミナー」を三田病院で開催／第5回「共に生きる社会」めざして高校生作文コンテスト 表彰式開催

23 【コラム】留学生が見た母国と日本の保健福祉事情
26 同窓会通信
27 生涯学習のご案内
28 学生投稿ページ

【平成26年度　学位記授与式】

■学部／大学院 学位記授与式

・大田原キャンパス＝学部／大学院
3月11日（水）10:20〜　体育館

・小田原キャンパス＝学部／大学院
3月13日（金）10:20〜　体育館

・福岡キャンパス／大川キャンパス＝学部／大学院
3月9日（月）13:00〜
福岡国際医療福祉学院　体育館

■大学院 学位記伝達式・修了生歓送会

・東京青山キャンパス（東京青山／小田原／熱海）
3月14日（土）16:30〜
東京青山キャンパス　5Fホール

■卒業式

・塩谷看護専門学校
3月4日（水）10:00〜　講堂

【平成27年度　入学式】

■学部／大学院 入学式

・大田原キャンパス＝学部／大学院
4月2日（木）10:20〜　体育館

・小田原キャンパス＝学部／大学院
4月3日（金）10:20〜　体育館

・福岡キャンパス／大川キャンパス＝学部／大学院
4月4日（土）11:00〜
大川キャンパス　講堂

■大学院 新入生歓迎会

・東京青山キャンパス
4月5日（日）13:00〜
東京青山キャンパス　戸田ビルホール

■入学式

・塩谷看護専門学校
4月6日（月）10:00〜　講堂

国際医療福祉大学総長 矢﨑 義雄

新年を迎え、皆様に一言ご挨拶を申し上げます。

本学は、医療福祉専門職の育成とその地位の向上をめざして一九九五年に開学した、日本初の医療福祉の総合大学です。本年は二〇周年を迎え、千葉県成田市に新しいキャンパスを開設。いよいよ来年には成田看護学部と成田保健医療学部が授業を開始することになっており、本学は新たな飛躍の年を迎えることとなりました。

さて、皆様ご存じの通り、わが国の人口に占める六五歳以上の高齢者の割合は、昨年には二五・九%に達し、国民の四人に一人は高齢者という文字通りの超高齢社会になりました。介護を必要とする人の数（要介護者）は六〇〇万人を超えています。二〇一二年には要介護者約五五四万人、認知症の方は四六二万人だったとされています。そのような方々をどのように支えていくかということ、さらには今後増え続けると予測される要介護者の数を可能な限り抑制することが求められています。

それにはまず、生活習慣の改善や疾病予防を通じて、介護を必要とせず自立した生活を送れる「健康寿命」を延伸し、高齢者の自立度の低下を防ぐことが重要です。同時に、介護にあたる医療福祉専門職が協調して、高齢者を包括的にケアすることにより、高齢者の自立度低下の進行を止め、かつ、その向上をめざすことが大切です。そのためには、能力の高い医療福祉専門職の育成が強く求められています。

二〇一一年度現在のデータでは、医師、看護師、リハビリテーション専門職、介護専門職などの医療福祉専門職は約四六〇万人を数えますが、団塊の世代が七五歳以上になる二〇二五年までに、少なくとも一五〇万人から二〇〇万人がさらに必要とされており、専門職の養成は急務といわざるをえません。そこで、本学の果たす社会的な使命は今後ますます大きくなるといえます。

このような視点から、本学では、専門性の高い高度な知識と技術を修得するばかりでなく、時代のニーズに沿い、幅広い視野を持って包括的なケアができる医療福祉専門職の育成をめざし、関連職種連携教育に重点的に取り組んで実践しています。皆さんも、超高齢社会に必須の医療福祉人材の重要性が高まるなかで、各分野の第一人者である教授陣のもと、充実した附属病院や関連施設が備わった本学で修練を積み、社会が求める医療人として今後活躍されることを、心より期待しております。

国際医療福祉大学大学院長 天野 隆弘

本年一月一日をもちまして、金澤一郎大学院長は名誉大学院長に就任、天野隆弘上席副大学院長が新大学院長に就任いたしました。
天野新大学院長からのご挨拶をご紹介します。

皆様に一言ご挨拶申し上げます。

この度、開原大学院長、金澤大学院長の跡を継ぎ、一月一日から大学院長に就任いたしました。両先生が営々として築いてこられた本学大学院の伝統を受け継ぎ、なお一層の飛躍を遂げる礎になる所存です。皆様のご支援、ご鞭撻のほどお願いいたします。

高齢化がますます進む日本の社会事情に合わせ、常に時代の変化を先取りして対応する分野、研究コースを立ち上げ、その方面の将来を担うリーダー育成をめざしていきたいと思っております。こうした私どもの大学院の取り組みが社会の要請に応える重要な手立てであることは、言を待つまでもありません。

企業に限らず、大学、大学院においても、絶えず時代のニーズに対応し変化を遂げない組織は、時代に取り残され、縮小を余儀なくされます。このことを私が強く意識したのは、ハーバード大学で一週間のMacy Programを受講した時でした。このコースディレクターの一人であるClayton Christensen教授の講義に感銘しました。彼は以前から、ビジネススクールのケースメソッドによる教育を行い、多数の世界的大企業からコンサルティングを依頼される有名教授です。その経験から、「Disruptive Innovationの無いところに明日は無い」ことを提言してきました。文字通りには「破壊的創造」ですが、「創造を伴った思い切った改革、改善」と理解すべきでしょう。

大学院もこの四月より、医療福祉教育・管理分野を新たに立ち上げます。一方、既存分野での教育内容にも新しい面を導入するなど絶えず変革を遂げ、すべての院生からこの大学院コースをとってよかったと評価していただける大学院になるよう、努力してまいります。特に、研究、教育の国際化は、国の施策として始まっています。この流れに遅れることなく、さらにこの方面を充実させる必要があります。教員の皆様と力を合わせ、教育、研究の質を上げながら社会変化にいち早く対応し、本学の理念である「社会に開かれた大学」、共に生きる社会を実現してまいります。

今年のもう一つの課題は、成田市と本学が共同で提案している「国家戦略特区における国際対応の医学部新設」でしょう。ご存じのように、本学は医療福祉の総合大学として、さまざまな医療福祉専門職を数多く養成しています。その中で、医学部の設立は長年にわたる本学の悲願です。この願いが成就することを期待しつつ、目標に向かってともに力を合わせ、新たな一年を歩んでいきましょう。

Tracing the 20-year history of IUHW through 100 of our Newsletters

※当時の記事から抜粋、引用していますので、数字や名称などは当時のまま掲載しています。

理事長
高木 邦格

6号（1996年1月）「新年によせて」より抜粋

昨年四月の開学以来早くも九か月がたちました。教職員の皆さんや学生諸君のおかげでここに無事新しい年を迎えることができ、大変感謝しております。

この大学は開学したばかりでまだ完成途上にあります。平成九年には医療福祉学部を増設し、さらに医療福祉の在り方や方法についての研究や政策提言等を行うための「国際医療福祉総合研究所」も同時期に発足させる予定で、昨年一二月二〇日に新校舎の起工式を執り行いました。これからの医療福祉には技術面のみならず制度面での整備も重視されるようになってきます。新学部や研究所を設立することにより、本学としてもこうした側面に対応していきたいと考えています。

今年は、法人としても、学園祭、文化祭、国際交流などにできるだけの援助を行い、コミュニケーションの輪を広げていきたいと考えています。

初代学長
故・大谷 藤郎

1号（1995年6月）「発刊にあたり」

学内報「IUHW」第一号の創刊をお慶び申し上げます。

また、編集にあたられた関係者のご努力に感謝いたします。紙面から教職員・学生の皆さんのご熱意やご活動の模様が目に浮かんでくるようです。

開学以来の大学の在り方を振り返って、私たちがめざす「人間中心の大学」、「地域社会に開かれた大学」、「国際交流の大学」の基本理念が、本当に大学運営に生かされてきたでしょうか。

「IUHW」は、私たちのコミュニケーションの場であるとともに、大学の軌跡であり、反省と明日への飛躍の踏み台となるものです。なりは小さくても、教育活動や学内イベントおよびその他もろもろをまたたく蛍火のように伝えて、教職員・学生一体のエネルギーを学内外に放射し続けてください。

二代目学長
谷 修一

40号（2001年10月）「学長交代」より抜粋

一〇月一日、午後六時から、谷修一新学長就任、大谷学長の総長就任のセレモニーが行われた。

谷学長は就任の挨拶のなかで、この大学創設時から多少の関わりを持ち、第一回の入学式では祝辞を述べられたこと、今朝読まれた週刊東洋経済の「ほんとうに強い大学はどこか」という記事中に本学の名が何度か出てきて、医療福祉系の大学としては追われる立場に成長したのかと感じられたことを述べられました。さらに、今や医療はサービス、患者さんは消費者という視点から、医療の構造改革もされねばならぬ時代であり、そこで学んだ学生たちが将来社会にとって役に立つ人間になるかどうかが大事で、現状に満足せず、大谷前学長が積み上げてこられたことをさらに発展させるのが自分の仕事である、そのために教職員の協力をお願いしたいと述べられました。

三代目学長
北島 政樹

78号（2009年8月）「新学長就任」より抜粋

他大学に類を見ない本学の特長のひとつが四つの附属病院を擁していることであり、学生の教育に活用されております。これらの病院では「チーム医療」を確立しており、これは学生にとって絶好の教育機会になっております。

こうした恵まれた教育環境の中で、学生は短期間で医療福祉の専門職としての高度なスキルと知識を学び、卒業時に施行される国家試験では高い合格率を上げ、その結果、卒業後の就職率も高く、多くの施設からの期待に応えております。我々教職員一同は、今後も本学の基本理念と教育理念のもとで、より良い教育環境の充実・推進をしていく所存であります。

最後に、私は学生の皆様が卒業後も「国際医療福祉大学で学んでよかった」と思われるような学舎にするべく常々努力していきたいと考えております。

総長
矢﨑 義雄

90号（2012年8月）「就任のご挨拶」より抜粋

四月に国際医療福祉大学総長として就任いたしました。医師不足対策の一環としてチーム医療の推進をめざし、医療職全体の能力向上のための教育改革に携わってまいります。

現在、医療と介護を必要とする人は、この一〇年強の間に三〇〇万人も増加すると予測されています。その結果、福祉介護に携わる人材は約一〇〇万人、看護に携わる人材は二〇万人から三〇万人不足するとされています。そこで、医師を中心とした従来のピラミッド型の医療福祉の提供体制ではなく、職種を超えて、患者様を中心にその知識と経験、技術を持ちよる「チーム医療・チームケア」、皆で協働して行うプラットホーム型の提供体制の構築が、社会的な喫緊の課題になっています。

夢を持った若者たちが「共に生きる社会」の実現をめざす本学の理念のもと、これからの日本の医療福祉を担うべく集結することを切に願っております。

初代大学院長
故・初山 泰弘

25号（1999年4月）「平成11年度入学式」より抜粋

午後四時から行われた大学院の入学式では、一期生四二名が入学しました。式では初山泰弘大学院長が「幅広い専門職となり、この二年間でオリジナリティーのある研究に取り組んでもらいたい」と式辞を述べました。

27号（1999年7月）「大学院」

四月から大学院修士課程（医療福祉学研究科 保健医療学専攻）が開設され四二名の院生が入学しました。保健学部と同様に五分野にわたって研鑽を重ねております。保健・医療・福祉の幅広い領域の知識を修得し、二一世紀の社会で活躍する専門職・研究者となるためには、競争社会で生き抜くタフさが必要ですが、同時に多くの人々と「共生」できる優しさをも備えた専門職となってほしいと思います。大学院はまだよちよち歩きですが、来年には学び舎も完成すると聞いております。本学の新しい芽としてよろしくお願いいたします。

二代目大学院長
故・開原 成允

49号（2003年4月）「大学院長交代の挨拶」より抜粋

大学院は、初山大学院長のもとで発展を遂げ、現在、在籍者数は約二五〇名になりました。キャンパスも、大田原のみでなく、東京、福岡、柳川、さらに附属の熱海病院にもサテライトキャンパスが開設されました。大田原とそれ以外のキャンパスの在籍者数は、平成一五年度の入学者では、大田原が約五〇名に対し、それ以外が約七〇名と大田原を上回りました。

これからは学生さんが「本学の大学院で学んでよかった」と思うように、内容を一層充実させていく必要があります。また、医療・福祉も大きく変貌しつつありますので、大学院教育の理念も再検討する必要があるのではないかと思っています。そして、そのひとつの方向は多様化ではないかと私は思っています。

現在のように学問・技術の進歩の速い時代では、本学卒業生にとっては生涯学習は最も重要な課題です。そのためにも、この大学院が役に立つこともあるのではないかと思っています。

三代目大学院長
金澤 一郎

88号（2012年1月）「新春のあいさつ」より抜粋

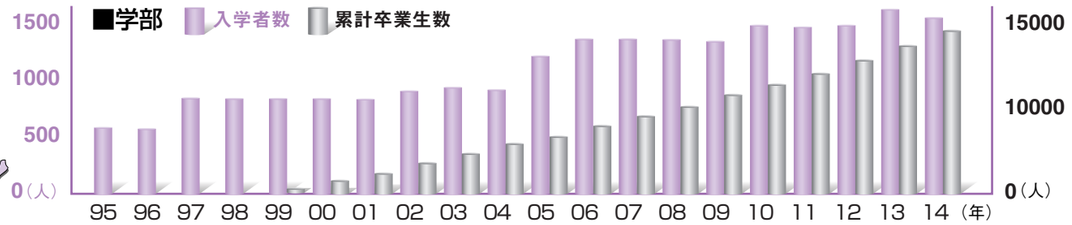
本学大学院の最大の特徴は、院生の多くが職業を持つ社会人であることだと思います。全体としてみれば八五％近くの院生が社会人とみていでしょう。

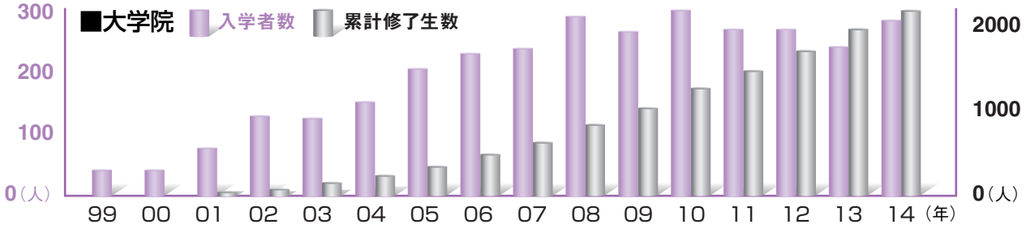
二つ目の特徴は、「同時双方向遠隔授業」を行っていることです。院生にとっては大変便利ですが、大学は人と人とのコミュニケーションを磨くうえで非常に大切な場であることを忘れずに、できるだけ、顔と顔を突き合わせる機会をたくさん作りたいと思います。

三つ目の特徴は開原先生の卓越した指導力によって、社会が必要とする分野やコースをダイナミックに運営してきたことです。厚生労働省が態度を明確にしていなかった時期に「ナースプラクティショナー養成分野」が創設されたことは驚くべく先見性です。

本年はこれまでの実績を十分考慮に入れながら、少なくとも五年先を見越してしっかりとした体制固めの年にしたいと思っています。

※当時の記事から抜粋、引用していますので、数字や名称などは当時のまま掲載しています。





大田原キャンパス

医療福祉学部を新設

12号（1997年1月）「お知らせ」より抜粋

今年四月、本学に医療福祉学部が新設されます。

医療経営管理学科は日本初の学科で、医療機関等での実務経験豊富な先生方が就任します。講義科目も医療施設建築概論、診療報酬点数理論・演習など目新しい科目が用意されています。また、医療福祉学科も国内では三つ目で、従来の社会福祉関連科目のほか医療関係の科目もあり、また、社会福祉士の国家試験科目をすべて必修にした学科として、将来高い国家試験合格率が期待されています。

二〇〇九年、医療経営管理学科と医療福祉学科は医療福祉・マネジメント学科に統合され、五つのコースで医療・福祉・マネジメントを身につけた専門職を養成しています。

薬学部を新設

61号（2005年6月）「開設 薬学部」より抜粋

北関東で初めての薬学部が開設された。医療人としてチーム医療に貢献できる人間性、社会性、国際性豊かな薬剤師を養成することを目的としている。そのため教育研究体制には、医療薬学、環境・社会薬学、創薬科学の三つの系を置いている。医療薬学系では、チーム医療の担い手となる実践的な薬剤師をめざした教育を行う。環境・社会薬学系は薬学が社会とどのように関わるのかについて学ぶ。創薬科学系では、基礎薬学から発展した、医薬品の開発やゲノム創薬などを学ぶ。

二〇〇六年より六年制に移行しました。基礎薬学と臨床薬学をバランスよく身につけ、さらに、薬物療法に必須である病気の知識を身につけた薬剤師を養成しています。

東京青山キャンパス

大学院設置が認可されました

24号（1999年1月）「お知らせ」より抜粋

保健学部五学科を基礎とする大学院医療福祉学研究科保健医療学専攻が、昨年一二月二三日、文部省から設置認可をいただきました。

入学定員は五四名で、看護学分野、理学療法学分野、作業療法学分野、言語聴覚障害学分野、放射線・情報科学分野にわかれて研究を進めます。

現在は、医療福祉学研究科（博士課程・修士課程）、薬学研究科（博士課程）、薬科学研究科（修士課程）で、入学定員も二三五名に増え、医療福祉専門職の生涯教育の拠点として機能しています。

小田原キャンパス

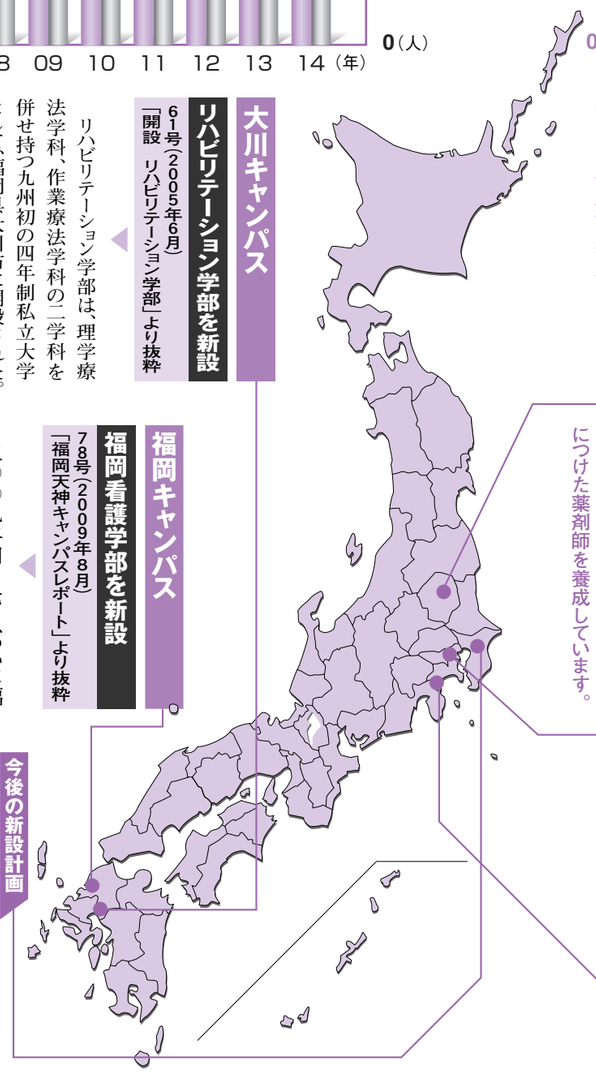
小田原保健医療学部開学

66号（2006年7月）「小田原保健医療学部開学」より抜粋

四月八日（土）、小田原保健医療学部では一六三名の学部学生と一五名の大学院生を迎え、新校舎で開学式および初めての入学式を執り行った。

新校舎は、都心へ延びる鉄道五路線のターミナル、小田原駅から徒歩三分という交通の便の良さが最大の特徴。市の中心部に位置する緑あふれる小田原城址公園も近く、校舎からも小田原城を目前に見ることができる。

昨年、現キャンパス近くの旧小田原城内高等学校跡地にグラウンドとクラブハウスを整備。さらに、現校舎に加え、体育館や新校舎の建設を予定しています。看護学科では、本年四月入学生より、入学定員を八〇名へ増員（三〇名増）します。



大川キャンパス

リハビリテーション学部を新設

61号（2005年6月）「開設 リハビリテーション学部」より抜粋

リハビリテーション学部は、理学療法学科、作業療法学科の二学科を併せ持つ九州初の四年制私立大学として、福岡県大川市に開設された。医療福祉を担う新しい人材養成に取り組む大学の役割は大きい。

四月二二日、二三日には、学生、教職員も参加して佐賀・北山で一泊二日の宿泊研修が行われた。最初はぎこちなかった学生同士だが、さまざまな活動をとおして交流していくうちに、夜にはすっかり打ち解けた様子が見られた。

古川昭人学科長は同研修の閉会式で、「研修を機に、仲間づくりの大事さを理解しました。本学へ入学した自分の目的意識を再確認してほしい」と学生たちに語りかけた。

二〇〇七年、言語聴覚学科を開設。さらに二〇一三年、医学検査学科を開設して、学部名を「福岡保健医療学部」に改称。福岡看護学部と連携した「関連職種連携教育」の取り組みもさらに加速しています。

福岡キャンパス

福岡看護学部を新設

78号（2009年8月）「福岡天神キャンパスレポート」より抜粋

二〇〇九年四月七日、ついに福岡看護学部が開学の日を迎えました。朝から天神キャンパスにやや緊張気味のスーツ姿の学生たちが集まり、午前一〇時三〇分、厳かに入学式が始まった。

開会の辞のあと、校歌斉唱が行われましたが、実は新入生たちは、入学式前のオリエンテーションの時から練習を積んでいたのです。練習の最初は恥ずかしがってなかなか大きな声を出せなかった学生たちでしたが、本番では見事な歌声を披露し、福岡看護学部第一期生として立派なスタートを切った。

二〇一三年、キャンパスを福岡市のシーサイドももち地区に移転し、「福岡キャンパス」に改称。グループの教育・医療施設を集約させたこの地で、国際性を備えた看護師を養成しています。

今後の新設計画

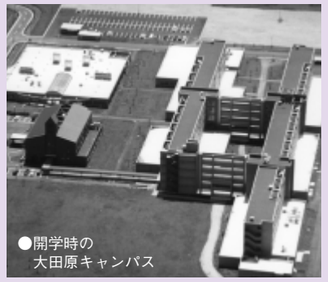
成田キャンパスを新設（計画中）

二〇一六年四月、千葉県成田市に、成田看護学部／看護学科、成田保健医療学部／理学療法学科・作業療法学科・言語聴覚学科・医学検査学科の開設を計画しています。

最先端かつ高度な医療サービスを提供できる医療福祉専門職を養成します。海外経験豊富な教授陣を揃え、語学教育を充実、九か国・約二〇施設における提携機関での海外研修の必修化など国際性に富んだ授業科目を数多く設置し、国際的に活躍できるグローバルな視点も兼ね備えた人材に育てます。

また、留学生の積極的な受け入れ、本学が協定を結んでいるアジアをはじめとする海外施設との交流、海外での医療福祉関連プロジェクトへの参加等をとおして、世界の医療福祉に貢献する取り組みにも力を入れていきます。

学部・大学院　開設の歩み


●開学時の大田原キャンパス

1995年 国際医療福祉大学開学
保健学部（現 保健医療学部）開設

1997年 医療福祉学部開設

1999年 医療福祉学研究科 保健医療学専攻（修士課程）開設

2001年 医療福祉学研究科 保健医療学専攻（博士課程）、医療福祉経営専攻（修士課程）開設

2005年 薬学部、リハビリテーション学部（現 福岡保健医療学部）開設

2006年 薬学部（6年制）、小田原保健医療学部開設

2007年 医療福祉学研究科 臨床心理学専攻（修士課程）開設

2009年 福岡看護学部、薬科学研究科 医療・生命薬科学専攻（修士課程・現 生命薬科学専攻）開設

2012年 薬学研究科 医療・生命薬学専攻（博士課程）開設

●現在の大田原キャンパス

同窓会「マロニエ会」

上田清史代表幹事

（理学療法学科一期生）

私が一期生として本学に入学したのが一九九五年です。早いものであれから二〇年が経とうとしています。今後も新キャンパスが設置されると聞いておりますが、母校が発展していくことはまことに喜ばしく、一人の卒業生として誇らしく思います。同窓会でも会員相互の親睦を図るとともに母校の発展に寄与し、社会の先輩としてできうる支援を行える会として大きく成長を遂げる必要があります。

本年度は学科やキャンパスの枠を飛び越えた交流を図ることを目的とした「地域支部会」組織の立ち上げに力を入れました。関東、九州、中国（北京）で支部会イベントを開催した結果、たくさんの同窓生にご参加いただくことができました。

一六六〇〇名の卒業生の会である本会は、母校の繁栄を願い、各学科幹事と力を合わせ、今後も運営に尽力していきたいと思います。

※当時の記事から抜粋、引用していますので、数字や名称などは当時のまま掲載しています。

●柳川療育センター

●水郷苑

●新宿けやき園

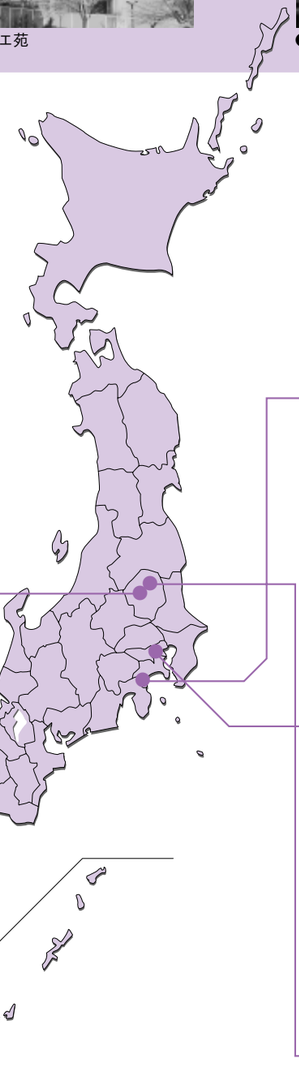
●マロニエ苑

●柳川リハビリテーション病院

●福岡山王病院

●国際医療福祉大学熱海病院

●国際医療福祉大学塩谷病院



附属熱海病院開院

45号（2002年7月）「お知らせ」より引用

いよいよ本学待望の附属病院が静岡県熱海市にオープンいたしました。

さる六月二七日、本学が継承する国立熱海病院の経営譲渡に関する調印式が、厚生労働省と本学との間で行われました。

それを受けて、病院オープン初日の七月一日には、院内会議室において継承式が行われた後、正面玄関前にて熱海市の川口市雄市長、本学の谷修一学長をはじめ関係者によるテープカット・除幕式が行われ、国際医療福祉大学附属熱海病院（神崎仁院長）が正式に開院の運びとなりました。

今後、平成一七年七月オープン予定の新病院建設にも着手し、本学の中核的臨床実習施設として、臨床実習や教育研修の受入れに対応できるような教授室、講義室、図書室、研修室および宿泊施設を整備する予定です。将来的には、全国の医療福祉専門職の生涯学習のセンターとして、さらには二一世紀にふさわしい最新の設備と環境を兼ね備えた地域の基幹病院として、附属熱海病院の発展に大きな期待が寄せられています。

附属三田病院開院

60号（2005年4月）「特集」より抜粋

昭和八年の開設以来、東京都港区において地域医療に貢献してきた日本たばこ産業株式会社（JT）東京専売病院を三月一日、本学が承継。国際医療福祉大学附属三田病院が新たに開設されました。

当日は、午前八時に開原成允院長、大山邦雄副院長、福井康之副院長、照井静子看護部長による除幕式が執り行われ、参加した職員とともに新病院の門出を祝った。緊張したスタッフが迎えるなか、外来の患者様が数多く来院され、新体制での診療がいよいよ開始された。

また、脳神経外科、乳腺センター、頭頸部腫瘍センターを同時に開設した。四月には、もの忘れ・メンタルクリニック（精神科）と呼吸器センターを新設。がん診療の拠点病院をめざし、設備と陣容の整備が進められている。専門性の高い医療を実践するとともに、患者様本位の療養環境が提供されることとなる。

国際医療福祉大学病院除幕式

69号（2007年4月）「施設インフォメーション」より引用

二〇〇七年二月一日、当院は正式に国際医療福祉大学の附属病院となりました。当日は暖かい日差しのなか、谷修一学長、佐藤郁夫病院長の手で除幕が行われ、新しい病院名「学校法人国際医療福祉大学　国際医療福祉大学病院」が披露されました。

今後は大学の附属施設として、これまで以上に医療に関する知識の習得を実践し、的確な診療・看護の強化に努めるべく職員一同決意を新たにしております。そして、栃木県北の拠点病院としての自覚を持ち、地域住民の皆様の健康維持、疾病治療のご期待に沿えるよう、より一層努力してまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

国際医療福祉大学塩谷病院誕生

77号（2009年4月）「特集」より抜粋

四月一日をもちまして厚生連塩谷総合病院を承継し、国際医療福祉大学塩谷病院として新たなスタートを切りました。塩谷病院は矢板市をはじめとする二市二町の中核医療機関として、地元の方からも馴染み深く、皆様から大きな期待も寄せられています。

塩谷病院は敷地面積三五〇〇〇㎡以上を有し、建物も平成四年に建設されたとは思えないくらいきれいなもので、いわば地域の顔となっております。そこから外を眺めると天気の良い時は、北は那須岳、西には高原山がすばらしくきれいに見える場所に位置しており、立地条件は抜群です。

診療科は内科系、外科系診療科をはじめとし、小児科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科等からなる総合病院で、ベッド数三〇〇床、江口光興院長はじめ約二〇〇名のスタッフが、日々患者様のために汗をかいています。

これからIUHWグループの一員として、他の施設に負けないよう、職員一同業務に邁進していきますので、今後の国際医療福祉大学塩谷病院の動向にぜひご注目ください。

附属病院他　開設の歩み

●国際医療福祉大学三田病院

1997年5月 国際医療福祉大学クリニック開設

2002年7月 国立熱海病院を継承し、国際医療福祉大学附属熱海病院開設（現 国際医療福祉大学熱海病院）

2005年3月 東京専売病院を継承し、国際医療福祉大学附属三田病院開設（現国際医療福祉大学三田病院）

2007年2月 国際医療福祉病院を本学附属とし、国際医療福祉大学病院に改称

介護老人保健施設マロニエ苑を学校法人化

にしなすの総合在宅ケアセンターを学校法人化

2009年4月 JA栃木厚生連塩谷総合病院を継承し、国際医療福祉大学塩谷病院開設

JA栃木厚生連塩谷看護専門学校を国際医療福祉大学塩谷看護専門学校として開設

●国際医療福祉大学病院

充実のグループ関連施設

福祉施設

本学は、大田原キャンパス内に障害者（児）支援施設「国際医療福祉リハビリテーションセンター」をはじめ、特別養護老人ホーム、在宅ケアセンター、県内唯一の情緒障害児短期治療施設等を併設し、学生が日常的に高齢者や障害を持つ方々と触れ合える環境にある。病気や障害を持つ人も健常な人も「共に生きる社会」を実現するという本学の建学の理念をめざしたものだ。また、西那須野地区でも、国際医療福祉大学病院の隣地に介護老人保健施設や在宅ケアセンター等を設置。首都圏においても、特別養護老人ホーム・障害者支援施設「新宿けやき園」やグループホームを運営し、グループ発祥の福岡県でも多彩な福祉施設を多数展開している。

このように本学は、医療福祉のニーズに最高レベルで応える複合体を志し、地域の医療福祉の向上に寄与するとともに、充実した臨地実習施設で高度な医療福祉専門職を育成している。

医療施設

本学には四附属病院をはじめとした大学附属の医療福祉施設に加え、臨床医学研究センターという位置づけの関連施設が全国に多数あり、教育、研究、実習などを力強くバックアップしている。

福岡地区には、グループの発祥である高木病院（福岡県大川市）をはじめ、福岡山王病院（福岡県福岡市）、柳川リハビリテーション病院（福岡県柳川市）などがある。関東地区にも、山王病院（東京都港区）、化学療法研究所附属病院（千葉県市川市）など、いずれも長い伝統と専門性の高い医療を提供する施設を擁する。こうした質・量ともに充実した実習先が、学生のうちから「チーム医療・チームケア」を学ぶ本学独自の「関連職種連携教育」を可能にしている。

さらに山王病院には本年一月に新棟が竣工し、三月には産科クリニック「山王バースセンター」をオープンする。「お産の山王」として伝統と実績を誇る山王病院と連携し、自然分娩を中心としたお産をチーム医療でバックアップする。

今後も本学は、建学の精神と理念に基づき、医療福祉の発展に貢献していく。

●高木病院

●山王病院

※当時の記事から抜粋、引用していますので、数字や名称などは当時のまま掲載しています。

中国リハビリテーション研究センター

中国訪問 ―高木理事長―
9号（1996年10月）「中国訪問」より抜粋

高木理事長は七月一日から五日までの五日間、丸山理学療法学科長、杉原作業療法学科長とともに、中国北京市を訪れました。 中国リハビリテーション研究センターは、中国における近代的・総合的リハビリテーション技術の確立をめざし設立された施設で、設立時には、本学の作業療法学科の杉原先生、矢谷先生、古川先生も専門家として中国に渡り指導にあたりました。現在、四〇〇床、四〇〇名の職員を抱え、中国最大級のリハビリ研究センターとして位置づけられています。

当大学への留学生の受け入れの他、三か月くらいの短期間で研修生を受け入れ、リハビリテーションについて学んでいただくプロジェクト、通信衛星を使って中国に大学の講義模様を配信し、中国におけるコメディカル分野の人材育成に貢献するプロジェクト等の検討を精力的に行ってまいりました。

ケニア

世界を行く ケニア奮闘記
27号（1999年7月）より抜粋

昨年四月より、ケニア国医療技術教育強化プロジェクトの一環として種々の国際交流活動に参加する機会に恵まれ、ケニアの教育従事者と公私ともに楽しく交流することができた。

ケニアにおける本プロジェクトのカウンターパートであるKMTC（Kenya Medical Training College）の教員研修員に対して本学で二か月間Computer Technologyに関しての研修を行った。研修の合間にケニアと日本の文化に関してのディスカッションができたことは有意義であった。また、昨年一一月ナイロビでKMTCの教員に対してコンピュータを利用したプレゼンテーション・スキルの講義を実施した際も多くのケニア教員と話す機会を得、彼らの旺盛な知識欲に接し、日本人も奢ることなく、知識に対して貪欲さを今一度持つべきではないかと考える二週間だった。

台湾 元培醫事科技大学

元培科技大学との交流協定に調印
68号（2007年1月）「国際交流」より抜粋

今般、本学は台湾の台北市から車で一時間の新竹市にある元培科技大学と人的・学術的交流の促進に合意し、その覚書を取り交わした。

同大はその創設経緯から、放射線分野の人材育成について台湾随一であり、現在では、看護、医療経営管理、バイオ、情報、金融等、時代の要請を反映し、さまざまな人材育成を行っている。台湾でも急速な少子高齢化が問題になりつつあるなか、同大も図書館や事務棟新築など施設の充実を図っており、本学との交流を機に、老人福祉分野の教育も手掛けたいとしている。

本学では、留学生の受け入れはもちろんのこと、周知のとおり、中国リハビリテーション研究センターとはすでに協力関係にあり、また、学生実習も海外各地で実施しており、今回の元培科技大学との提携により、今後一層の国際化が進むことになる。

海外協力協定締結先

●中国リハビリテーション研究センター

1998年10月	（中国）中国リハビリテーション研究センター
2006年10月	（台湾）元培醫事科技大学
2007年7月	（タイ）マヒドン大学
2009年3月	（中国）首都医科大康復医学院
2009年4月	（USA）ハワイ大学 カプリオラニ校 （タイ）クリスチャン大学
2009年5月	（オーストラリア）ゴールドコースト インスティテュート オブ テイフ
2009年8月	（USA）フィラデルフィア科学大学メイズカレッジ
2009年10月	（韓国）健陽大学校 （韓国）仁済大学校
2009年12月	（USA）コロラド大学デンバー校（看護学部）
2013年4月	（シンガポール）ナンヤンポリテクニック
2013年10月	（ミャンマー）ヤンゴン看護大学
2013年11月	（韓国）大邱韓医大学校
2013年12月	（ミャンマー）ヤンゴン第一医科大学 （ミャンマー）ヤンゴン医療技術大学
2014年2月	（韓国）乙支大学校
2014年7月	（ベトナム）ホーチミン市医薬科大学 （ベトナム）国立チョウライ病院

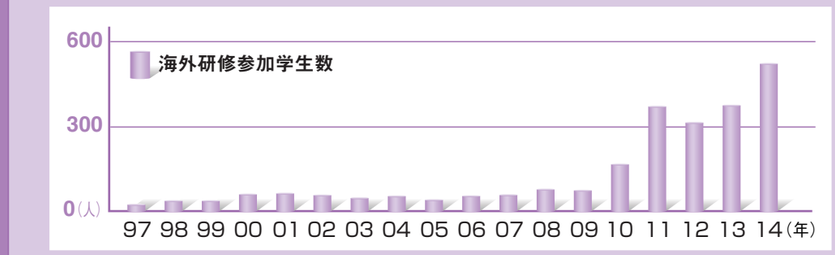
●元培醫事科技大学 図書館

タイ マヒドン大学

マヒドン大学と本学大学院との協力協定に調印
71号（2007年11月）「トピックス」より抜粋

タイ王国のマヒドン大学公衆衛生学部と本学大学院が、助産学および関連分野で教育的協力や共同研究等を進めることになり、七月二三日、マヒドン大学において協力協定の調印式が行われた。本学からは高木理事長、開原大学院長、小島国際交流センター長、江幡助産学分野責任者以下教員四名を含む計一〇名が、マヒドン大学からはピッタヤ公衆衛生学部長以下十数名が参加した。調印式はピッタヤ学部長の歓迎スピーチで始まり、覚書署名、開原大学院長の返礼スピーチのあと、今後の交流について意見交換を行った。

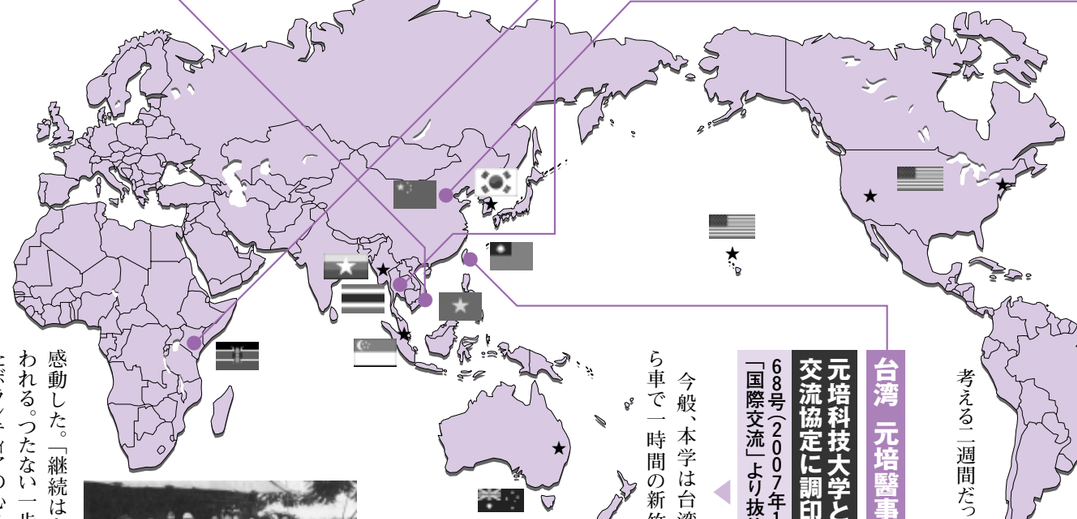
本学大学院では助産師教育の目標の一つに、将来海外の母子保健向上に貢献できる人材の育成を挙げており、カリキュラムには国際母子保健活動論や海外母子保健実習を設けている。今後、学生間交流や教員の研究・研修をとおし、両大学の交流が充実したものになることを願っている。



海外保健福祉事情

ベトナム―神秘の国から友好国へ
チョーライ病院での国際ボランティア活動の報告
16号（1997年10月）より抜粋

ベトナムの朝は早い。まだ薄暗い六時前から湧き出るようなバイクの波―ブンブンという音がエンドレスに真夜中まで続く。ホーチミン市の中心街から西へ五キロ、華僑の大半が住むというチョロン地区にそびえ立つ一〇階建ての大病院―一一人の学生はここで約三週間、外来・入院患者対象のリハビリ科と脳外科、小児入院病棟とで主に活動を行った。医療スタッフ、患者さん、家族とのコミュニケーションは笑顔と全身を駆使したジェスチャーで、だんだんに打ち解けていった。「仕事をさせていただく、現場に入り込んでいく」という精神が徐々に周囲に受け入れられ、スムーズな人間関係を築いていけたように思う。南国特有の底抜けに明るい善良な人柄と家族の絆の強さが心を揺さぶり、近年日本で失われつつある温かな思いやりの心に一同感動した。「継続は力なり」と言われる。つたない一歩を踏み出したボランティアの心をさらに発展させていきたいと強く願う。皆様の温かなサポート、チョーライの皆さんに深く感謝いたします。



●メコンデルタで チョーライ病院スタッフと学生たち

海外保健福祉事情 訪問先

2014年夏季の訪問先は次の7か国・9か所。

- ●韓国
  仁済大学校
  建陽大学校
  大邱韓医大学校
- ●台湾
  元培醫事科技大学
- ●タイ
  クリスチャン大学
- ●ミャンマー
  ヤンゴン看護大学
- ●ベトナム
  チョーライ病院
- ●シンガポール
  ナンヤンポリテックニック
- ●オーストラリア
  ゴールドコースト
  インスティテュート・
  オブ・テイフ

国際協力の今後の展開

本学は開学以降、多彩な国際交流・協力に取り組んできたが、近年では特に、アジア諸国を対象とした交流・協力にも力を入れている。

当初、国際ボランティアとしてスタートした「海外保健福祉事情」は昨年度、参加学生数が五〇〇人を超えた。本カリキュラムの将来的な必修化を見据え、このたび韓国のウルチ大学と協定を締結したが、今後も引き続きさまざまな地域や大学・医療機関との協定を進め国際交流の幅を広げていく予定である。

また、大学や大学院への進学を希望する留学生を対象に、日本語や日本事情・文化を教える準備教育機関として留学生別科を設置することとなった。学生募集のタイミングから一期生の入学は平成二七年一〇月となる予定。まずは、大田原キャンパスで開校し、その後状況を見ながら他キャンパスへの拡大も検討していく。

国際医療協力の分野では、ミャンマーとベトナムにおいて着実な成果を挙げている。短期研修生については、平成二六年度中にミャンマーやベトナムから十数名の受け入れを予定している。職種も医師・看護師・放射線技師・臨床検査技師・理学療法士など多岐に亘っている。

ミャンマーでは我が国の経済産業省プロジェクトとして一一月に実施した、遠隔画像診断実証実験に成功し、今後、現地医療関係者に対して、病理や放射線画像診断技術を恒常的に教える研修センターの設置に向け取り組んでいる。また、同国保健大臣から高木邦格理事長に要請があったリハビリテーション分野での協力も進めている。

ベトナムでは予防医学意識の高まりを背景に、本学と二〇年来の交流があるホーチミンのチョーライ病院と「日本型人間ドック」を共同で事業化することで大筋合意した。今後詳細を固め、今年後半にはベトナムで初となる日本品質の人間ドックサービスを提供すべく努めている。

卒業研究発表会

大田原キャンパス 言語聴覚学科

一一月二七日、那須アスリーナ二階の学生ホールにて、本学科の卒業研究発表会が開催された。今年度も多くの学生が積極的に卒業研究に取り組み、事前の口頭審査を経て、言語聴覚障害に直接関係するものを中心に二三題の発表が行われた。

発表はポスターでの質疑応答形式で、参加した三、四年生は、認知、記憶、聴覚情報処理、言語発達などさまざまな研究内容に、深い関心と興味を持って参加していた。今まさに来年度の卒業研究を開始しようとしている三年生にとっては、研究のヒントを得たり、最終学年に向かう気持ちを新たにしたりする有意義な場となった。また、四年生にとっては、卒業後も言語聴覚士として研究的な視点を持って臨床を行う第一歩となったのではないかと思う。

（助手　荒木茂行）

●ポスター発表で３年生に説明する発表者

大田原キャンパス 視機能療法学科

一二月六日、卒業研究発表会が在校生と教員が参加のもと開催された。四年生は、夏休み期間を除く五月一二日から一一月一五日まで臨地実習がある。加えて実習報告会、卒業試験や講義、就職活動等で多忙ななか、グループ毎に研究を続けた。先行論文を読み、実験デザインを考え、データ収集、解析と、毎日夜遅くまで取り組んだ。テーマは、基礎的研究から臨床的研究まで多岐にわたり、その成果をグループ全員が力を合わせて発表した。発表を終えた学生たちは、達成感でいっぱいだったのだろう。どの顔も晴れやかで誇らしげに見えた。四月から視能訓練士としてスタートするが、今後もこの経験を生かし、臨床のみならず研究面でも医療に貢献してほしい。

（教授　藤山由紀子）

●発表会を終え、学生と教員が大集合

大田原キャンパス 放射線・情報科学科

一〇月二五日、放射線・情報科学科の卒業研究報告会がO棟一〇一教室とロビーで行われた。例年と同様、各卒業研究グループから選出された一五名の実行委員を中心に企画・運営された。

発表会では放射線に関わる一〇〇以上の演題が報告され、一年生から四年生まで、約四〇〇名が参加した。なかでも新四年生となる三年生は真剣な面持ちで講演に聞き入っていた。

三年生の一月に卒業研究グループに配属され、各自がテーマを決めて卒業研究に取り組む。そのため、毎年一〇〇以上の発表が行われる。今年の報告会でも発表形式は各卒業研究グループから選ばれた一五名が口述発表を行い、それ以外の学生はポスター発表を行った。

四年生の互選により、口述発表から三演題が優秀賞として選ばれた。受賞した学生は国家試験直後に実施される栃木県診療放射線技師会学術研究発表会で発表する。また、ポスターからも六演題の優秀賞が選ばれ、計九名に記念の盾と賞状が贈られた。

（講師　岡村直利）

●ロビーで行われたポスター講演の様子

大田原キャンパス 医療福祉・マネジメント学科

一二月二三日、本学科の診療情報管理コースと医療福祉マネジメントコースの二コースでは、二、三限に六会場で卒業論文発表会を開催した。これは四年次の必修科目である卒業研究の論文提出後、審査の一部として実施されるもので、主査からの厳しい質問に四苦八苦する四年生を、来年は我が身の三年生が真剣に見守る姿が随所で見られた。

本学科には医療福祉領域の臨床や経営を支える多様な学問分野を専門とする教員が所属しており、それを反映して学生の研究テーマも自然科学から社会科学まで広範な領域にわたる。そのため、論文書式や審査基準を一律に課すことが難しい。そこでこれら二コースでは、各分野の標準的規定を入念に比較検討し、それらを融合させ独自に開発した「卒業論文作成要項」を学生に予め提示し、公平性の確保に努めている。

（医療福祉・マネジメント学科　西堀眞弘）

●学科独自に開発した「卒業論文作成要項」と発表会の様子

第11回 学生&企業研究発表会

一二月六日、栃木県宇都宮市のとちぎ産業創造プラザで、「第一一回学生&企業研究発表会」が開催された。この催しは大学コンソーシアムとちぎが主催し、県内の大学が一堂に会して、「地域社会活性化」、「環境エネルギー」、「ものづくり」、「医学・医療・福祉」の四つの異なる分野で、学生が主体となって行った日頃の研究や活動内容を発表しあう研究発表会で、栃木ならではのユニークなイベントである。

午前中に行われた分野別の研究発表審査会に続いて、午後は各賞の選考会と表彰式が行われた。

本学からは、「ものづくり分野」に一チーム、「医学・医療・福祉分野」に五チーム、ポスター発表に一チームの合計七チームがエントリーした。最優秀賞（知事賞）は「ものづくり分野」から「立体高次局所自己相関特徴を用いた動画像中の動体対象数」を発表した小山工業高等専門学校の学生が受賞したが、本学の七チームもよく健闘し、「医学・医療・福祉分野」で金賞を受賞したほか、協賛機関の冠賞のひとつである「朝日新聞社賞」を受賞した。

（以下、受賞者敬称略）

金賞

【医学・医療・福祉分野】

アルコール依存症の改善に向けて漢方薬が示す可能性

～抑肝散はアルコール依存症に有用か？～

■**薬学科五年**

大森雄貴（発表者）
青木千華・大谷和加奈・田之上幹・永山絵里奈・白野博之・堀江ひとみ

●見事に金賞を受賞した大森さんの発表の様子

朝日新聞社賞

【医学・医療・福祉分野】

妊娠期のストレス曝露への警鐘と治療提案

～子に及ぼす情動障害と漢方薬の応用～

■**薬学科五年**

田沼香里奈（発表者）
髙田朋子・服部陽香・見木沙織

奨励賞

【医学・医療・福祉分野】

抗体ライブラリーを用いる関節リウマチ治療薬創製の試み

■**薬学科五年**

樽川歩実（発表者）
星野里奈・小野優紀恵

医薬品の個別適正化を目指した簡易・迅速的なCYP3A5遺伝子多型診断法の開発およびCYP3A5が関与する薬物スクリーニング法の確立

■**薬学科五年**

佐藤輝（発表者）
岸隆斗・鬼頭佑太朗・竹沢麻奈美

ストレス性精神疾患に対する統合医療の有用性に関する基礎研究

～恐怖条件付けストレス試験における抗うつ薬と漢方薬の併用効果～

■**薬学科五年**

加賀達也（発表者）
竹村征也・福井恵理・矢板祐一・山口圭介

●表彰状を手にする田沼さん

奨励賞

【ものづくり分野】

美しい姿勢は足下から

―姿勢安定に特化した運動療法の開発―

■**理学療法学科四年**

白戸里加子（発表者）
今野紗央里・佐藤ゆりえ・茅野世佳

奨励賞

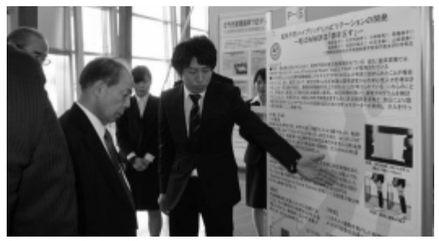
【ポスター発表】

転倒予防ハイブリッドリハビリテーションの開発

―転ばぬ秘訣は「膝を正す」―

■**理学療法学科四年**

日吉淳美（代表者）
猪股亜衣
大河内咲希
小林俊和
斎藤典子
髙橋泰子
田部井優太
山田萌美



●ポスター発表の様子

（大田原キャンパス総務課　豊島功）

第33回 キャンパスレポート

小田原

理学療法学科の勝平純司講師がグッドデザイン賞を受賞

小田原保健医療学部理学療法学科の勝平純司講師が開発に関わった体幹装具「トランクソリューション」が、二〇一四年度グッドデザイン賞を受賞した。

この装具は、腰痛者の腰部負担を軽減するもので、腰に装着・固定してバネの力で胸を押すことにより、押された胸を戻そうと無意識に腹筋に力が入るという仕組み。勝平講師はこの装具の開発にプロデューサーとして参加し、主に腹筋に無意識に力が入る仕組みの構築に貢献した。

●装着時のトランクソリューション

●受賞した勝平講師

なお勝平講師らは昨年度この仕組みに関する特許権を取得している。

この装具は全国で二八〇〇万人以上といわれる腰痛者だけでなく、高齢者の転倒予防や片麻痺者のリハビリテーションにも有効。また、腹筋のトレーニングや良姿勢学習にも使用できることから、障害の有無に関わらず、ユニバーサルに利用されるものとして広まることが期待できる。

なお、「トランクソリューション」は、四月からの商品化が計画されている。

（総務課　高久晃）

市民公開講座開催

一一月九日、小田原キャンパスの市民公開講座を開催した。今年のテーマは、「輝かせようＭｙ Ｌｉｆｅ ～測って健康！ 笑って介護！～」。

今年も一年生と二年生全員で準備し、一七講座の体験型ブースと三講座の講演を設けた。今年は、地域の方から要望のあった「介護」に関する講座を初めて設けた。

当日はあいにくの雨模様ではあったが、一八二名にご来場いただいた。来場者からは、「今年は介護の講座があってよかった」、「学生からお迎えしようという気持ちが伝わってくる」などといった声が寄せられた。

（総務課　高久晃）

●市民公開講座のひとコマ（ストレッチ&マッサージ）

献血活動を実施

一二月一日、小田原保健医療学部の六階体育館を会場に、献血活動が実施された。今年二回目、通算四回目となる。

神奈川県赤十字血液センターと小田原ライオンズクラブが中心となり、昨年の四月、九月、今年の六月と実施してきた。毎回多くの学生・教職員が献血活動に参加し、今回の献血には七六名が協力している。

神奈川県赤十字血液センターの担当者からは、「神奈川県内の他大学においても献血活動を実施しているが、一回で五〇名を超えることは珍しく、同じ医療系大学でも、二〇名から三〇名の協力者があれば多い方です。献血によって命が救われることへの意識の高さに驚きます。他大学と比較しても、毎回多くの学生・教職員が参加協力してくれて非常に助かります」と感謝の言葉をいただいた。

●受付をする教職員

学外で献血をした際に作った献血カードを持参する学生もおり、医療職をめざす学生として頼もしく思える。

今年度内の献血活動は今回で終了となるが、次年度以降も年二回のペースで計画し、通例行事として引き続き実施していく予定である。

●献血前の問診の様子

過去の献血数

第一回（平成二五年四月二五日）	献血数：五七名
第二回（平成二五年九月一九日）	献血数：六五名
第三回（平成二六年六月四日）	献血数：九七名
第四回（平成二六年一二月一日）	献血数：七六名

●献血、お疲れ様でした。

（学務課　下田岳史）

第23回 キャンパスレポート

福岡

元培醫事科技大学での活動レポート

❶国際学生学術論文検討会

一一月七日に台湾新竹市の元培醫事科技大学で行われた国際学生学術論文検討会に福岡看護学部四年生の佐々木尚子さんが学術論文発表者として参加した。

元培醫事科技大学へは、台北から台湾高鐵（新幹線）で新竹まで三〇分。快適な新幹線サービスのコーヒーを飲み干す間もなく新竹駅に到着。駅には、元培醫事科技大学の学生が出迎えてくれた。

国際学生学術論文発表会には、元培醫事科技大学の学生をはじめ、中国、上海、ベルリン、日本からは本学以外に西九州大学の学生が参加し研究成果を発表した。

佐々木さんは、卒業研究で取り組んだテーマ『周手術期における効果的な低体温予防の方法』を発表した。周手術期の看護として体温管理に着目し、文献検討の結果、術前からの衣類・寝具や手術室の室温による保温の重要性、手術中は温風式加温装置による保温、手術中・手術後の吸湿発熱性繊維製品による保温の必要性を発表した。発表後、座長であった新生醫護管理専科学校の荘彗華先生より発表証明書が送られた。

●検討会で発表する佐々木さん

国際医療・看護技術教育研究会で講演された北島政樹学長も学生の発表会に参加され、発表や質疑への対応方法などのご指導をいただいた。

学生にとって、このような国際的なイベントでの発表は、大きなチャレンジである。佐々木さんが、いきいきと学生間交流をする姿は頼もしく、国際的な視野の広がりが得られたことを実感した。

●発表証明書が贈られた

❷創立五〇周年記念イベント

国際学生学術論文検討会の翌日、一一月八日は、元培醫事科技大学創立五〇周年記念行事に出席。その後、佐々木さんは運動会に参加し、学生間交流を深めた。

夕方からは、新竹市から台北へのバス観光に参加。途中、新北市立鶯歌陶瓷博物館で陶芸を鑑賞し、士林夜市へ。

●新北市立鶯歌陶瓷博物館で陶芸を鑑賞

元培醫事科技大学の学生と国際部の方々と一緒に台湾らしさを感じる賑やかな通りで、漢方で豚などをじっくり煮込んだ士林十全排骨と胡椒餅の食事をとり、歩き疲れて一休みしながら台湾の夜を楽しんだ。

元培醫事科技大学の皆様の細やかな配慮と新たな出会いに感謝した旅だった。

（福岡キャンパス　教授　塚原ひとみ）

●創立50周年記念イベントに出席

国家試験「全員合格」に向けて取り組む

平成二七年二月に保健師・看護師の国家試験に臨むのは、福岡看護学部の三期生である。全員が保健師・看護師国家試験を受験するのは今年が最後である。新カリキュラムの四期生からは、保健師選択コースの学生だけが保健師の国家試験を受ける予定である。今年度の第一〇一回保健師国家試験は二月二〇日、第一〇四回看護師国家試験は二月二二日に実施される。昨年は、全国的な大雪の中での開催で、東北では別日程で看護師国家試験を受験した学生もいた。受験日を見据えて、一生懸命勉強する学生の姿を見ていると、今年はそんな状況にならないことを祈りたい。

例年、三年次の一二月に実施する国家試験対策オリエンテーションから本格的な取り組みが開始する。今年の専任教員の補講対策は、五つのコースで構成した。第一コースは、「四月に実施した国家試験出題基準」の説明、第二・三コースは、一一月からの「必修問題対策」と「状況設定問題を読み解く」である。第四コースは、かなりの努力を要する学生を対象にした「暗記特訓コース」であり、第五コースは一月から開始する「学校での学習と生活時間調整コース」である。

看護師国家試験は、朝九時に始まり夕方五時までと長時間集中しなければならない。夜型人間の多い学生にとって、昼間に十分実力を発揮できるよう生活を整えることも一月からの大きな課題である。学習の成果が表れない学生を保護者の協力を得ながら支えることも教員の役割である。今、福岡看護学部専任教員は、一丸となって学生を支えている。

三月二五日の国家試験合格発表日、「全員合格」の朗報のために、学生と共に頑張ろう！

（国試対策委員長　塚原ひとみ）

キャンパスレポート ●大川

第37回 大川 キャンパスレポート

理学療法学科 卒業研究発表会

一一月一日、理学療法学科四年生（第七期生）による卒業研究発表会が行われた。

今年度の大きな特徴は、大川キャンパスに理学療法学科が開設されて以来初めて、選択科目である「卒業研究」を四年生全員が履修し、総仕上げの場である発表会に臨んだことである。また、発表会は口述とポスターによる新しい形式を取り入れ、臨床実習の期間に、多くの三年生も参加した中での開催となった。

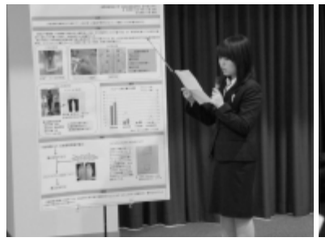
●初めて4年生全員が履修した「卒業研究」の発表会

学生は四年次の前期より一二のグループを形成し、指導教員と「研究」に関する実験計画の立案や実行について綿密な相談を継続的に行い、試行錯誤を繰り返して得られた結果を発表した。「バイオメカニクス」、「呼吸」、「神経生理」など多岐にわたる分野を研究テーマとした三〇演題について、活発な質疑や討論が交わされ、発表会は積極的で前向きな雰囲気あふれたものとなった。

優秀演題賞には、『健常者における横隔膜運動と腹部呼吸運動の関係』と『若年成人における身体活動が実行機能に与える影響』の二つが選ばれた。

今回、四年生全員が「卒業研究」を履修し、発表会に臨んだことは、研究手法の一端を知る絶好の機会となったと確信している。彼ら全員の卒業後の活躍を大いに期待している。

（助教　池田拓郎）



●ポスター発表の様子

平成二六年度 地域公開講座を開催

一一月二六日、大川キャンパスで「地域公開講座」を開催した。

『これってもの忘れ？　それとも認知症？　～認知症の理解と症状進行の予防～』というテーマで本学作業療法学科の新川寿子准教授が講演し、地元大川市をはじめとした六〇名を超える地域の方々にご参加いただいた。

参加者は、認知症に関する講義と一般的に行われている検査を体験することで、さらなる理解を深めた。新川准教授は、「疑いが生じたら、まずは相談していただきたい」と話し、「脳の健康診断を受けましょう」といった受診のきっかけ作りや誘い方、受診を嫌がるご家族に対しての上手な話し方を紹介した。参加者からは「参加型・実践型でとてもよかった」などの声が寄せられた。

●再開した公開講座の第1回目を担当した新川准教授

本学の地域住民を対象とした公開講座は、大川キャンパスが開設された翌年の平成一八年より毎年定期的に実施されていたが、この二年ほどは、医学検査学科の開設に伴う工事等で一旦休止を余儀なくされていた。この度「地域公開講座」として装いも新たに再スタートを切ることとなった。今後は、年一回だった開催を数回に増やすことも視野に入れて、充実を図る予定である。福岡保健医療学部の辻貞俊学部長は「これからも地域交流の場となる公開講座をとおして、深く地域に貢献していきたい。本学の持てる知と技を積極的に地域に提供していくことによって、社会的責任を果たしたい」と挨拶した。

今後は本学の教員が教育研究の成果を大学の中だけでなく広く社会に開放することで、地域の皆様への生涯学習の展開と貢献を図ることができるよう、新たな企画を検討しているところである。

（九州地区広報室）

●熱心にメモをとる参加者

キャンパスレポート ●大学院 ●塩谷看護専門学校

第7回 大学院 キャンパスレポート

大学院長の辞令交付式

平成二七年一月一日付で国際医療福祉大学大学院長が金澤一郎教授から天野隆弘教授に替わることを受け、一二月二六日、東京青山キャンパスにて辞令交付式を執り行った。式は全キャンパスに同時中継され、高木邦格理事長、金澤一郎教授、天野隆弘教授のほか、佐藤禎一学事顧問、杉原素子副大学院長をはじめ、各キャンパスから多くの教員が参加した。

天野新大学院長は、平成二一年に本学教授に就任、平成二二年より副大学院長を務めた。

金澤教授は、平成一九年に本学大学院教授、副大学院長に就任し、平成二三年より大学院長を務め、大学院運営に尽力した。今後は名誉大学院長、学事顧問となる。

●高木理事長から辞令を受ける天野新大学院長

大学院入試に向けて

二月九日の出願締め切りに向け、各分野・専攻では以下の通り、入学説明会・相談会を実施している。

■診療情報アナリスト養成分野

一一月三〇日、東京青山キャンパス五階ホールにて講演会・進学相談会を開催した。講演会のテーマは「『がん登録データ』『DPCデータ』の分析・活用から医療と経営の質向上を考える」。第七回となった今回は昨年度を大きく上回る一五七名が講演会に参加し、講演後には進学説明会も行われた。

■臨床心理学専攻

例年八月に開催している第一回目の専攻説明会を九月一五日の大学院全体のオープンキャンパス内で開催。カリキュラム説明、入試説明、教員による相談会という内容に昨年度を上回る五二名の参加者が熱心に聞き入った。

■医療経営管理分野

一〇月一三日と一二月一四日に医療経営戦略コース（h―MBAコース）の説明会を開催。コース内のプログラムの紹介、模擬授業に続き、相談会を実施した。

■助産学分野

大田原（八月、一二月）と福岡（九月、一二月）でオープンキャンパスを開催した。カリキュラム説明、入試説明の後、教員、卒業生、在校生を交えた昼食会をはさんで、相談会を実施した。

次年度入試に向けた出願もこれからピークを迎えます。出願を検討されている方は、大学院ホームページにて情報をチェックしてください。

（東京青山キャンパス　大学院運営室）

第15回 塩谷看護専門学校 キャンパスレポート

一二月一二日、第九回生四一名の看護の誓いの式が挙行された。前日までの雨が嘘のような青空で、清々しい気持ちで迎えた朝だった。身支度を整えて開式を待つ学生たちの表情は緊張で強ばっていた。実行委員を中心に練習を重ね、クラス全員で会場を作り、やっと迎えたこの日。担任としては、リハーサル通りうまくいってほしい、節目の式として思い出に残るものになってほしいと祈った。同じ緊張感のなかで迎えた入学式とは異なり、強ばる表情のなかにも八か月の看護学生としての成長が感じられた。真っ暗な中で、キャンドルを手に壇上でナイチンゲール誓詞を斉唱する学生たちは、誇らしく、堂々とした姿だった。会場を周回し、保護者席の前で一礼すると、シャッターの音が鳴り響く。我が子の姿に保護者の思いもひとしおのようだった。

●看護の道へ堂々と歩み出した1年生

その後、学校長をはじめ、丸山仁司国際医療福祉大学副学長、国際医療福祉大学病院の田口春美看護部長より温かいご支援の言葉をいただいた。田口看護部長からは、看護するうえで、「心身の問題を発見できる知識と経験をもっていること」、「苦痛や不快感を和らげるための具体的な看護技術を身につけていること」、「医師の言葉をわかりやすく翻訳し、患者さんや家族に伝えることのできる教養と能力を備えていること」が真の力として必要であるというメッセージだった。

思えば、四月からの慣れない九〇分の座学、聞きなれない専門用語の多い講義、プロとしてベッドサイドに立つための基礎を学んできた八か月だった。日々何気なく行っていた日常生活動作を、看護援助として提供するための技術習得は困難を極める。看護師としての所作を、僅か三年間で身につけることは難しいかもしれない。それでも看護師をめざす心を育み、看護の厳しさと魅力を伝えていきたいと、斉唱する学生たちを見て思う。

この看護の誓いの式は、学生にとっては所信表明でもある。これから足を踏み入れる臨地への思いを馳せ、看護の道を歩むための弛まぬ努力を続けていってほしい。そしてナイチンゲールから受け継いだ灯火を、ずっと灯し続けてほしいと願うばかりである。

（教務部　八木澤妙子）

施設インフォメーション／新春のごあいさつ

●国際医療福祉大学病院 ●国際医療福祉大学塩谷病院 ●国際医療福祉大学三田病院 ●国際医療福祉大学熱海病院

附属病院

国際医療福祉大学病院

病院長　蘇原　泰則

東北大学卒、医学博士。前自治医科大学外科学講座主任教授。元日本呼吸器外科学会会長・理事・終身指導医。

新年にあたり、皆様にご挨拶申し上げます。

昨年は当院にとって記念すべき年となりました。一昨年より開始した心臓外科手術や手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」による手術はトラブルなく順調に数を伸ばし、昨年より開始したPET・CTも確実に拡大しております。平成二六年度上半期における一日の平均入院患者数は二六〇人、一日の平均外来患者数は九五〇人、一か月の平均手術件数は三二〇件、救急受入数は二三〇件でした。これにより、外来・入院の実績は国際医療福祉大学・高邦会グループ病院の中でトップとなりました。

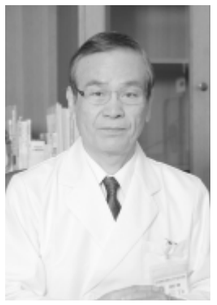
今年は乙未（きのとひつじ）の年で、難問を思い切って払い落すことが必要とされております。さまざまな障害を取り払い、地域医療の発展のために職員一丸となって取り組んでまいりたいと考えております。

本年もよろしくお願い申し上げます。

附属病院

国際医療福祉大学塩谷病院

病院長　早川　正道



慶應義塾大学卒、医学博士。防衛医科大学校名誉教授。前防衛医科大学校長・病院長。日本泌尿器科学会指導医・専門医。

昨年は、病院機能の向上とインフラ整備に努めた一年でした。循環器内科は常勤医二名体制で心臓カテーテル治療を開始、神経内科と高齢者診療内科を充実させ、外来棟を増築して増加するニーズに対応いたしました。化学療法室の新設や内視鏡準備室の整備なども行いました。病棟に関しては、一般病床を三〇床オープンし、総病床数を二四〇床としました。回復期・リハビリテーション病棟の病棟区分を「病棟入院料二」から「一」へ強化し、四月に開設した「しおや総合在宅ケアセンター」では、通所リハビリテーションのご利用者数が順調に増加、在宅看護・居宅介護の部門の機能も充実しつつあります。

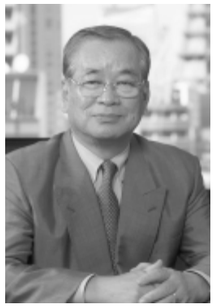
本年度は地域包括ケア病棟を開設し、これからの超高齢社会に求められる地域の中核病院としての体制を整えるとともに、グループのご支援もいただきながら、さらに医療スタッフを充実させ、地域医療へ貢献してまいる所存です。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

附属病院

国際医療福祉大学三田病院

病院長　小川　聡



慶應義塾大学卒、医学博士。慶應義塾大学名誉教授。元日本循環器学会理事長、元日本心臓病学会理事長。

当院は今年、大きな目標に挑みます。

昨年から国際医療機関認証（JCI）取得の準備を進めてまいりましたが、いよいよ三月九日～一三日の五日間で模擬審査を受けることになります。シカゴのJCI本部から国際審査委員三名が派遣され、本審査さながらに、当院の現在の医療がJCI基準を満たしているか検証されます。その際に指摘される問題点を約半年かけて改善したうえで、一〇月頃には本審査を受審する予定です。

これまでは、選抜された職員約一〇〇名が一四のワーキンググループを組織し、約一二〇〇項目の基準への対応を協議してまいりましたが、これからは全職員が日常診療の中でその基準を実践していく段階に入りました。JCI認証取得に向けた日々の努力により、患者安全の基盤が構築され、世界に通用する質の高い医療が実現できるはずです。

本年もなお一層のご指導、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

附属病院

国際医療福祉大学熱海病院

病院長　横田　俊平

横浜市立大学卒、医学博士。同大学名誉教授。前同大学医学部小児科教授・同大学医学部長等を歴任。元日本小児科学会理事長。

熱海市は人口わずか四万人ですが、美しい海を前に、後ろには山を背負い自然豊かな町です。当院はその中核病院として、また伊豆半島全域の医療をも担っています。

一方で地方都市特有の問題も抱えており、特に人口に対する六五歳以上人口の割合を示す「高齢化率」は四二％と、認知症を併発する高齢者のケアが重要です。退院後の在宅管理や施設への入所をスムーズに行うことが病院の機能維持には重要で、熱海市健康づくり課、医師会、老健や特養などの施設と協議を重ね、町全体として高齢者を見守る姿勢に転換を促しています。また、ケアにおいても、見る、話しかける、触れる、立つを柱とした認知症への対応方法「ユマニチュード」を導入し、高齢者が豊かな感情の中で過ごせる場所にしようと知恵を出し合い、団塊の世代が後期高齢者となる「二〇二五年問題」を先取りした町と医療の関係の構築をめざしています。

施設インフォメーション／新春のごあいさつ

●国際医療福祉リハビリテーションセンター ●新宿けやき園 ●山王病院 ●化学療法研究所附属病院 ●高木病院

臨床医学研究センター

国際医療福祉リハビリテーションセンター

センター長　下泉　秀夫

徳島大学卒、医学博士。元栃木県身体障害医療福祉センター医務科長。国際医療福祉大学大学院教授。

当センターは二〇〇〇年に創設し、今年で一六年目となります。これまで職員全員の力で、地域の障害児・者の医療福祉の向上に努力してまいりましたが、利用者の増加、障害の多様化に伴って施設が狭くなってまいりました。

今年は、さらに地域の皆様に貢献し、入所者が利用しやすくなるよう、外来、リハビリテーション、入所施設、通所施設等のリニューアルを行います。また、社福法人邦友会として、職員、地域の子育て支援のために大田原キャンパス内に保育施設の新設を計画しております。

今年もご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

臨床医学研究センター

新宿けやき園

施設長　杉原　素子

お茶の水女子大学院修士課程修了。前日本作業療法士協会会長、国際医療福祉大学大学院副大学院長、米国作業療法士資格取得。

皆様にご挨拶申し上げます。

全個室ユニット型特別養護老人ホーム・障害者支援施設・認知症対応型通所介護施設を併設している当園は、開設七年目を迎えます。

各々のサービスで生じるであろうさまざまな出来事に今年も職員一同、誠実に対応し新たな技術を積み重ね、よりたくましい施設に成長していく所存です。

当施設がある首都圏の医療福祉人材不足は著しいものがありますが、高齢者・障害者支援のニーズは日々増大しております。各大学キャンパスにおかれましては、人材の確保につき、引き続きご支援をいただきたくお願い申し上げます。

臨床医学研究センター

山王病院

病院長　堤　治

東京大学卒、医学博士。前東京大学医学部産婦人科学教室教授。日本受精着床学会理事長、日本産科婦人科内視鏡学会常務理事。

国際医療福祉大学の臨床医学研究センターである当院は、昭和一二年の創設以来、オープンで安心な思いやりのあるプライベートホスピタルとして歴史を築いてまいりました。

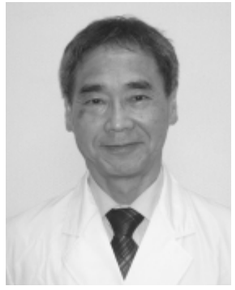
現在、近接する山王メディカルセンターと協力して外来・入院診療を行っており、昨年末に隣地に新棟が完成いたしました。今春には「山王バースセンター」の開設とNICUやICUなど当院をより充実させる施設を新たに擁しスタートします。地域医療への貢献と、本学の関連病院としての機能をますます高めてまいります、

本年もご支援、ご鞭撻をお願いいたします。

臨床医学研究センター

化学療法研究所附属病院

病院長　西野　卓



千葉大学卒、医学博士。千葉大学名誉教授。前千葉大学医学部麻酔学講座教授、日本麻酔科学会指導医。

公益財団法人としての新たな出発をしてから三年目になります。

当院は結核病棟、一般病棟に加え、回復期リハビリテーション病棟、療養病棟、通所リハビリテーションを備えた特色のある病院として躍進が期待されておりますが、いまだ結核専門病院との認識が強い印象があります。結核のみならず、予防医学、生活習慣病からがん治療まで、幅広い高度な治療を行う病院として地域に周知されるよう、診療内容の大幅な充実を図り、地域医療に真に貢献できる体制の構築が必要であると考えております。

この目標をもって、職員一同、邁進いたします。本年もよろしくお願い申し上げます。

臨床医学研究センター

高木病院

病院長　岩坂　剛

九州大学卒、医学博士。佐賀大学名誉教授。日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医、日本婦人科腫瘍学会認定婦人科腫瘍専門医、日本臨床細胞学会認定細胞診専門医。

昨年の当院の最大のできごとは、急性期新棟の完成です。これにより、救急外来およびICUの拡充、HCUの新設、手術室の増室・拡充、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」導入の準備、外科系病棟の集中化が実現。リハビリテーション部門を大幅に拡張しました。

今年一月から、放射線治療装置を最新型リニアックへグレードアップ、強度変調放射線治療（IMRT）が可能となりました。今後は、地域のがん診療の拠点病院をめざし、緩和ケアチームの充実など、質の高いがん医療の整備を進めてまいります。

今年もご支援をよろしくお願いいたします。

ベトナムへの医療協力を積極的に推進

本学はベトナムを対象とした海外医療協力の一環として、開学以降、ベトナム南部の拠点病院であるチョーライ病院に対して、教員の派遣、研修医や留学生の受け入れ等、人材育成分野での協力等を長年にわたって継続してきた。

先頃、さらなる協力についての意見交換を目的として、本学の高木邦格理事長、佐藤禎一学事顧問等が首都ハノイに赴き、保健省のグエン・ティ・キム・ティエン保健大臣を表敬訪問した。大臣と理事長との対談では、チョーライ病院から提案があった同院における日本式人間ドックセンターの開設に係る協力や、本学が計画している短期研修生の受け入れ等に関して活発な意見交換が行われた。大臣からは、これら本学の活動について賛同し全面的に支援するとともに、日本への長期留学生派遣についても協力したいとの発言があった。

ベトナムから本学の医療協力に対する要望の声は非常に高く、今後は日本式人間ドックセンターの開設、長期留学生や短期研修生の受け入れ、遠隔診断への協力など、具体的な計画が進められることになっている。

（国際部　加瀬文彦）

●グエン・ティ・キム・ティエン保健大臣（右）との意見交換

元培醫事科技大学 五〇周年記念行事に出席

一一月八日、本学の高木邦格理事長、北島政樹学長ほか一行一〇名は、台湾の元培醫事科技大学の創立五〇周年祝賀行事に出席した。同大学は、台湾で初の放射線技師養成専門学校として開校、その後医療関係学科を次々に開設して現在に至っている。同大学の蔡雅賢執行理事と本学の高木敦子名誉会長との親交から交流が始まり、二〇〇六年に協力協定を締結して以来、相互訪問を行っている。

同大学に当日開設された「影像医学博物館」を視察中、展示されていたシングルスライスCTは、同行していた本学の勝俣健一郎放射線・情報科学科長が開発に携ったものだと偶然わかり、参加者から喝采を浴びた。勝俣学科長は「こうした形で出合えるとは感慨深い」とコメントしていた。

（国際部　鷺谷俊一）

●蔡雅賢執行理事(右)に記念の額を手渡す高木理事長

●林志城校長(右から3人目)と本学関係者。手前が勝俣学科長が開発したCT

ミャンマーでの遠隔画像診断・研修センター構築へ向けた実験が成功

経済産業省の推進する医療機器・サービス国際化推進事業の一環として、本学は二〇一一～一二年にかけて、中国とベトナムで「遠隔病理・画像診断プロジェクト」を成功させた。二〇一四年度はベトナムとミャンマーを対象に実施している。このプロジェクトは、日本の診断技術と検査機器技術、情報通信技術を融合させ、病理や画像診断分野の専門医が不足しているアジア諸国で遠隔診断システムを展開することを目的に、遠隔画像診断・研修センターの設立をめざすものだ。

ミャンマーに関しては本学から、国際医療福祉大学三田病院の長村義之病理診断センター長（プロジェクトリーダー）と縄野繁放射線診断センター長（サブリーダー）、大学院の小川俊夫准教授（サブリーダー）他がヤンゴンへ赴き、一一月一一～一二日、ヤンゴン第一医科大学と国際医療福祉大学三田病院を専用回線でつなぎ、さまざまな症例の診断を遠隔で行い、実験を成功させた。今後はこの遠隔診断システムの、現地における実際の診断や、研修用途での活用が期待される。

（国際部　加瀬文彦）

●ヤンゴン第一医科大学における遠隔病理診断の実証実験

ミャンマーの教育省副大臣、ヤンゴン外国語大学学長訪問／タイのクリスチャン大学学長訪問

一一月一五日、ゾー・ミン・アウン　ミャンマー教育省副大臣と、ルイン・ルイン・ソーヤンゴン外国語大学学長が、国際医療福祉大学三田病院と山王病院を視察後、本学関係者と意見交換を行った。

意見交換会には、ミャンマー大使館のウイン・アウン公使のほか、本学大学院で学ぶミャンマーからのIUHW奨学生四名も出席し、今後の留学生の受け入れや、ヤンゴン外国語大学との交流推進に関して意見が交わされた。今後は、本学からの学生派遣時に、ヤンゴン外国語大学の学生との交流推進が期待される。

一一月一七日、タイのクリスチャン大学のジャンジーラ学長や大学院生など総勢三九名が来日し、山王病院、国際医療福祉大学三田病院、新宿けやき園を視察後、大学本校にて学術交流協定の更新協定書の調印式を行った。一八日には国際医療福祉大学病院を視察したほか、二〇日には高木邦格理事長が晩餐会を主催し、ジャンジーラ学長との旧交を温めた。

（国際部）

●ゾー・ミン・アウン教育省副大臣（前列中央）を囲んで

本大学院生がESD ユネスコ世界会議に学生ボランティアとして参加

タイから留学し、本学大学院の医療福祉学研究科博士課程のSHUMPLANG KHOMSAK（シュムプラング　コムサック）さんが、一一月に名古屋市で開催された「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」に学生ボランティアとして参加した。教育分野の国際会議としては過去最大のこの会議には、各国から閣僚級の代表団が訪れ、コムサックさんは持ち前の明るさと英語・日本語力を生かしてコンゴ民主共和国代表団のエスコートを担当した。

なお、この会議には、本学の佐藤禎一学事顧問も宣言文の策定に参加された。

コムサックさんは、「国際会議の一端を垣間見ることができたことを幸運に思っています。このボランティア活動で得た経験は一生忘れることのない思い出になりました。励ましとアドバイスをくださった佐藤禎一先生と池田俊也先生に感謝しています」とコメントを寄せた。

※会議の模様は左記でご覧いただけます。

http://www.unesco.org/new/en/unesco-world-conference-on-esd-2014/

（大学院運営室　相澤有紀）

●「将来はグローバルに活躍したい」と言うコムサックさん

大学院生の林翔太さんが日本人間工学学会で優秀研究発表奨励賞を受賞

昨年六月五～六日に神戸国際会議場で行われた「第五五回日本人間工学学会」で、大学院保健医療学専攻理学療法学分野の林翔太さんが、「優秀研究発表奨励賞」を受賞した。本賞は、当該年度の大会終了時点で二六歳未満の若手研究者が対象となる賞で、最優秀賞一名、優秀賞四名が選出され、林さんは「持ち上げ動作によって生じる椎間板圧縮力の比較 ―骨盤前傾を指示することで腰部負担は変化するのか―」という演題で発表を行い、「優秀賞」を受賞した。

持ち上げ動作時には、腰部負担が大きくなることが知られており、持ち上げを頻繁に行う業種においては、腰痛の発症率が高くなることも知られている。こうした背景から、持ち上げ作業の現場では、さまざまな腰部負担軽減の対策が実施されている。林さんは、現場で実施されている腰部負担軽減対策に着目し、持ち上げ作業時に生じる腰部負担をモーションキャプチャーシステムを用いて計測し、定量的に評価した。加えて、どのような指示を与えると持ち上げ作業時の腰部負担を軽減することができるのかを明らかにし、高い評価を得た。

林さんは現在、博士課程一年生として在学中であり、今後の研究成果が期待される。

（大学院理学療法学分野　勝平純司）

●受賞した林翔太さん

留学生が見た 母国と日本の保健福祉事情 第1回

●黄 秋晨（コウ シュウシン）さん 中国出身
理学療法士／博士課程3年

私が理学療法士をめざしたのは、家のそばに中国リハビリテーション研究センター（CRRC）があり、中学生の時に母が、「ここで働いたら」と言ったのがきっかけでした。その後、北京で高齢者が急速に増えましたが、当時、リハビリ（特に理学療法）への中国人のイメージはマッサージと温熱療法であり、病院や施設ではほとんど提供していませんでした。

そうしたなか、二〇〇二年、北京の首都医科大学に入学し、リハビリ治療学（理学療法）の勉強を始めました。JICA（日本国際協力機構）と中国障碍者連合会が連携した「リハビリテーション専門職養成プロジェクト」により、CRRCのパートナーの首都医科大学で、中国で初めて理学療法士と作業療法士を養成する四年制教育が開始された年であり、私はその一期生となりました。国際医療福祉大学やCRRCと連携して、日本のカリキュラムを参考にしながら、中国独自の教材を作りました。その時、恩師の丸山仁司先生をはじめ多くの先生方にお会いして、日本の理学療法技術を学びました。

二〇〇六年に卒業し、CRRCに勤めました（母の言葉通りになりました）。二〇〇八年、CRRCと国際医療福祉大学が連携した「JICA中国中西部地区リハビリテーション人材養成プロジェクト」が始まりました。CRRCの職員が日本で修士課程を学ぶことになり、私も参加して修士号を取得しました。

二〇〇九年に帰国後、リハビリの教育や臨床、国際協力などの仕事をしましたが、自分の能力不足を感じていました。中国では急速にリハビリが普及し、地方でもリハビリ施設や養成学校の数は何十倍にもなり、ニーズは拡大していますが、リハビリ人材、特に研究人材は不足しています。CRRCと国際医療福祉大学のさらなる「人材養成プロジェクト」が始まり、私は博士課程を学ぶために国際医療福祉大学に留学し、来年修了する予定です。

「西学東漸」という言葉があります。西洋の知見が東洋に伝わるという意味ですが、過去、欧米からさまざまな科学や技術が伝来しました。リハビリも同様です。一方、中国には多くの症例があり、日本には最先端の技術があります。両国が連携すれば、リハビリや福祉事業は飛躍的に発展する可能性があります。そうした成果をもって欧米に影響を与えていくこと、つまり、「東学西漸」を共通のビジョンとして両国が連携することが望まれます。

最後に学部生の皆さんへ、「読万巻書、行万里路」という中国の諺を送ります。「万巻の書を読み、万里の道を行く」、すなわち、「本から得た知識以外に、自らの足で各地を巡り、視野や見聞を広める」という意味です。

●大田原キャンパスにて

大田原キャンパス　看護学科

「学外ゼミナール」開催

学外ゼミナールは、中心市街地活性化策として大田原市「まちづくりプロジェクト」の提言を受け着想。『大学と地域が協働連携し在宅医療推進に向けた課題解決をめざす新しい看護教育モデルの構築』として科研費（代表：村松由紀）を獲得し実施した。準備運営は市と協働にて「トコトコ大田原」を教室に九月一八日に開講した。参加者は六一～八三歳の大田原市民と看護学科一年生各一〇名の計二〇名。「エイジング・イン・プレイスの実現に向け住み慣れた地域で長く暮らすためには」を主要なテーマに三班にわかれ、①『世代間交流』、②『テーマ別交流』：テーマに即したディスカッションやリサーチから焦点を絞る、③『実地交流』：②の学習プロセスから課題解決に向けた現地調査（訪問看護ステーションや見まわり隊活動等）、の三段階構成で全八回実施した。

最終日の一一月一四日には、これまでの学びの成果報告会を実施した。参加した学生は、「今回、見守る側と見守られる側双方の意見を聞き、一方的な先入観や偏った意見に影響されず、互いの意思を尊重する気持ちが、地域で高齢者を支えるためには欠かせない」と感想を述べた。

（教授　村松由紀）

世代間交流編では、全員の生まれた年代や歴史・出来事の年表を作成した。「かつて金丸飛行場から特攻隊が死に向かって逝った。今はその場所に大学が建ち、生に向かっている」との市民の言葉が印象的。

大田原キャンパス　基礎医学研究センター

「動物慰霊祭」開催

一二月一七日、大田原キャンパスにて「動物慰霊祭」を開催した。これは教育・研究に供された動物に感謝と哀悼の意を表すために、毎年一回行っているものである。

開会の辞、北島政樹学長の挨拶に続き、薬学部の加藤英明講師により「動物実験における依存症の評価」と題する講話があった。現在、ニュースで頻繁に取り上げられるなど、「危険ドラッグ」が大きな社会問題となっているが、こうした薬物依存症の評価に用いられている動物実験の方法やデータなどを交えながら、研究における動物実験の重要性や実験用動物に対する配慮の必要性などが語られた。

引き続き、同センターの北村義浩教授から「動物実験・緊急時マニュアル」の説明があり、最後に「献花」が行われた。教職員に続き、理学療法学科一年、作業療法学科一年、薬学科三年の班代表学生が次々に献花台に向かい、厳かな雰囲気の中で終了した。

●動物実験の意義を語る加藤講師

●献花する班代表学生

基礎医学研究センター　動物飼育室

ラット、マウスの短期的研究のための短期飼育エリアと遺伝子組換えマウスなど系統維持と長期的研究のための長期飼育エリアが配置され、湿度・温度管理と換気調節がなされている。また、簡単な手術や測定を行うための処置室やケージ洗浄室、飼育エリア入退準備室が整備されている。

（大田原キャンパス広報室　金井雅之）

大田原キャンパス　医療福祉・マネジメント学科

「三年次病院実習報告会」開催

一〇月二八日、医療福祉・マネジメント学科の経営二コースにおいて、総勢二〇二名が参加する「三年次病院実習報告会」を開催した。これは、実習病院の指導者へ四週間の夏季実習の成果を報告するとともに、二年生への情報提供を目的として、毎年秋に実施している。三年生は実習の集大成として緊張した面持ちで発表を行い、二年生は自身の実習病院選考の参考情報を収集するために真剣なまなざしで発表を聞いていた。四年生は、前年の実習経験をもとに三年生へ質問し、活発な発表会となった。

報告会に参加した実習病院の指導者より、「学生が得た学びを知ることができた」、「実習中よりさらに成長した姿が見られた」という声が聞かれた。教員から見ても実習を終えた三年生は、社会人として評価できるくらい成長した姿に感じられた。

（助教　滝澤雅美）

●実習成果を発表する学生

「ポーランド・日本医療技術セミナー」を三田病院で開催

一一月二五日、国際医療福祉大学三田病院でポーランドの医療・科学技術分野の要人一五名をお迎えし、「ポーランド・日本医療技術セミナー」を開催した。これは、「北島政樹学長の指導のもとで、ぜひとも日本の先端的な医工連携の取組を紹介してほしい」という、ポーランド大使館を通じた要望に対してお応えしたものである。

セミナーは北島学長の挨拶で始まり、参加されたポーランドのルブリン医科大学、グダンスク医科大学など各大学や医療研究所の映像を交えた紹介があった。当院からは、長村義之病理診断センター長と縄野繁放射線科画像診断部長より、経産省のプロジェクトである複数の病院間で同一の病理画像や放射線画像を共有できる画像伝送テレパソロジーと画像診断の技術についてのプレゼンテーションが行われた。

さらに、NEDO（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）から、北島学長がプロジェクト・リーダーをつとめている軟性内視鏡手術システム、ニューロリハビリシステム、スマート治療室についての紹介があり、皆が熱心に耳を傾けていた。

和やかなティータイムを挟んで、今後の科学技術分野の交流に関して活発な意見交換が行われた。その後の院内見学では、当院とグループ関連施設の山王病院が誇る放射線診断・治療機器や、病棟・病室、リハビリテーション室などを関心深くご覧いただいた。

（総務企画課　川井直子）

●調印式を終えて三大学関係者とともに

第五回

「共に生きる社会」めざして　高校生作文コンテスト表彰式開催

本学と毎日新聞社の共催による「『共に生きる社会』めざして　高校生作文コンテスト」は五年目を迎え、一一月二二日、大田原キャンパスで表彰式が行われた。

全国から寄せられた一六八九点の作品の中から、一次審査、最終審査を経て、最優秀賞一点、優秀賞二点、佳作二点、入選五点、学校賞七校が選ばれた。

当日は少し寒いながらも秋晴れに恵まれた。式典の前に、「よい脳をつくる～遺伝か環境か」と題して桃井眞里子副学長の特別講演があり、一般来場者や在学生が多数詰めかけた。写真や図を使って脳の仕組みや発達の過程がわかりやすく解説され、医療福祉専門職をめざす学生にとって貴重な機会となった。

表彰式には、最優秀賞、優秀賞、佳作に入賞した四名の高校生とその保護者、担当教諭、学校賞を受賞した高校の教諭が招待された。北島政樹学長の主催者挨拶、毎日新聞社編集委員の冠木雅夫様の作品講評に続き、北島学長から受賞者に賞状などが贈られた。

最後に、最優秀賞、優秀賞、佳作の五名による作品朗読（欠席者一名の作品は司会者が代読）が行われた。自らの体験をとおして発見した喜びや苦悩、悲しみなど高校生の素直な思いが伝わると同時に、課せられた試練に真剣に向き合い、答えを導き出す姿は来場者に感動を与えた。

（東京事務所広報部　立花鉄二）

●表彰式を終えた個人賞・学校賞の受賞者

●最優秀賞作品を朗読する鈴木さん

最優秀賞　鈴木美紀（みのり）さん
●宮城県仙台二華高等学校一年

優秀賞　岡部千尋さん
●群馬県立吾妻高等学校三年

優秀賞　槇本彩耶香さん
●東京・大妻中学高等学校二年

佳作　稲葉莉帆さん
●和歌山・近畿大学附属新宮高等学校三年

佳作　鮫嶋優衣さん
●岐阜県立吉城高等学校三年

入選　大森翠菜さん
●東京都立立川ろう学校二年

入選　岡崎美瑛（みお）さん
●東京・東洋英和女学院高等部一年

入選　北村大空（たく）さん
●香川県立三本松高等学校二年

入選　菅野亜維さん
●神奈川・横須賀学院高等学校三年

入選　延総史さん
●沖縄・沖縄尚学高等学校二年

学校賞
宮城・常盤木学園高等学校
茨城・常総学院高等学校
栃木・宇都宮短期大学附属高等学校
千葉県立長狭高等学校
東京・八王子学園八王子高等学校
長野県豊科高等学校
大分・岩田高等学校

同窓会通信
IUHW Alumni Association Report
Vol.6

広報誌一〇〇号発行によせて

平成七年六月に第一号が発行された本誌「IUHW」は、今回で記念すべき一〇〇号となりました。在学中はもちろん、卒業後も送られてくる本誌を楽しみにされている同窓生も多いと思います。今回、四人の同窓生からバックナンバーを振り返って、コメントをお寄せいただきました。

手話サークルMöbiusの思い出

大田原キャンパス　言語聴覚障害学科（現言語聴覚学科）第一期生　鬼越美帆（株式会社日立製作所ひたちなか総合病院勤務）

鬼越さんは現在まで活動が引き継がれている手話サークルの初代代表です。

第二号当時を振り返り、懐かしさでいっぱいです。Möbius（メビウス）の名は、メビウスの輪から「これから無限に続くように」との願いを込めました。

当時は私を含め初心者ばかりで、健聴の講師から講義形式で手話を学びました。面白さを感じつつも、実際に手話を使う機会がなく物足りなさもありました。授業の都合で全員が揃いにくく、参加者が徐々に減り、サークル長として胃が痛くなったことを覚えています。

その後、地域の社会福祉協議会を通じ、さまざまな年代のろう者との交流が始まりました。直接手話を教えていただき、ろう協会のイベントに参加して関係を深めました。風花祭で一緒に手話歌や劇を披露したり、ミニ手話教室を開いたり、軍手で立体的な指文字表を作ったりしたことも楽しい思い出です。

ろう者の方々から、時には叱られながら、手話という言葉だけでなく、ろう者の生活や苦労、考え方など「ろう文化」を学ばせていただきました。

現在、私は出身県内の総合病院に勤務しています。手話を使う機会は減りましたが、当時の仲間は今も良き友人です。

在学生の皆さんは、学業に励みつつ、ぜひサークル活動も満喫してください。

●いつも支えてくれる同僚に感謝!（前列中央が鬼越美帆さん）

「豚汁会」の思い出

大田原キャンパス　看護学科　第二期生　室井亜紀子（国際医療福祉大学病院勤務）

撮影者の室井（旧姓高久）さんに第一五号（平成九年）当時を振り返っていただきました

当時、私は写真部に所属し、さまざまなイベントで写真を撮っていました。「豚汁会」は、私たち「星野事務所」（仲間の愛称）が中心となり、看護学科のみんなで野菜を切って持ち寄り、大鍋で豚汁を作って振る舞うイベントでした。当時はまだ保健学部のみで、三学年までしかなかった学生同士、学科を越えて交流したことを覚えています。

その仲間とは、現在も子連れで集まり、バーベキューや飲み会をします。大学時代はボケベルかPHSでしたが、今はSNSでお互いの近況報告もしています。

現在は国際医療福祉大学病院A三階西病棟に勤務しています。娘が三歳になり、育児にも奮闘中です。WLBについて悩みもありますが、同期や病棟の仲間、そして家族に助けられながら、仕事を続けることができています。

今年度は、再び臨床実習指導の担当となりました。学生との交流は、自分の看護を振り返る良い刺激になっています。学生の皆さんにも、「自分の看護」を実践し、体感できる時間にしてほしいと考えています。一緒にがんばりましょう。

●星野事務所新年会のひとコマ。豚汁会当時と変わらない笑顔の中に新メンバー（かわいいお子さんたち）の姿が見えます!

出会いの喜び

医療福祉学科（現医療福祉・マネジメント学科）第八期生　古寺哲也（栃木県精神保健福祉会理事）

現在、栃木県精神保健福祉会理事として活躍中の古寺さん。五五号（平成一六年）で最高齢の新入生として紹介されました。

ある時、友人から「人生とは」と問われ、「人との出会い」と答えた。大学では素晴らしい師との出会いがある。また四年間ともに学ぶ学友がいる。切磋琢磨した学生時代の友は生涯の友であると思う。

私は家庭の事情があって、六七歳で本学に入学して七〇歳で卒業した。現在は栃木県精神保健福祉会（やしお会）で家族相談を担当している。入学した時は何もかも新鮮で驚きの連続だった。講義やゼミで学問の研鑽に努めた先生方に出会い、自分はこの先生方に巡り合うためにここへ来たのだと胸を熱くした。他学科の先生方からも折に触れ、温かい言葉をかけていただき、その人間性が心に響いた。そして、ともに切磋琢磨し友情を温めた四〇以上年の違う友人たちは、クラスメートのみならず、他学科や上級生の中にもいる。卒業後に会う機会はあまりないが、今でも手紙のやり取りがあり、この出会いは私の宝だと思っている。

今は七七歳になったが、これまでに多くの人々と出会い、感化を受けた。特に先生方は、小学校から大学まで自分の人間形成に大きな影響を与えてくださった。出会いは感動です。また、大学は学問の府です。学生は勉強に努めることはもちろん、スポーツやクラブ活動、可能な限りボランティア活動に取り組んでもらいたい。そこに、新たな人との出会いがあります。

●在学中から恩師を尊敬し、「三歩下がって師の影を踏まず」をモットーにしていた古寺さん。たくさんの人と出会う大学生活を積極的に過ごしてほしいとおっしゃっています。

一〇年間を振り返って

大川キャンパス理学療法学科第一期生　鶴（旧姓　百瀬）あずさ（柳川リハビリテーション病院勤務）

鶴さんは、福岡リハビリテーション学部（現福岡保健医療学部）の初めて入学生として誓いの言葉を述べました。

入学当初は、はじめての一人暮らしもあって、不安だったことを覚えています。しかし、学生数が少なかったこともあり学生同士すぐに仲良くなり、サークルにも入って、新しい環境に慣れました。また、一期生はさまざまな行事を新たに作り出していく大変さもありましたが、同時に、楽しさや充実感、達成感を味わうことができ、良い思い出となっています。

現在は、回復期病棟専従のスタッフとして働いています。二年前に、訪問リハビリテーションで働いたことがあります。そこで、在宅での生活、在宅でのリハビリについて学んだことを生かし、患者様の在宅生活を意識したリハビリを行うよう心がけています。

仕事以外では、毎年開催されている同窓会に参加しています。この同窓会は、経験年数の壁を超え、卒業生がどのように治療し、対象者と向き合っているのかを知る場、語らう場となっており、毎年活発な意見交換が行われ、充実した時間を過ごしています。卒業生だけでなく、在学生の参加もあり、さまざまな考えを知ることが、仕事への活力にもつながっています。また、就職先が違い、普段はなかなか会えない友だちとの再会も楽しみのひとつです。

●年に一度の「同窓会」は、大切な時間です。あの頃の笑顔に会いたくなったらぜひ参加してください!

生涯学習のご案内

本学はキャリアアップをめざす医療福祉職の方々を支援するため、大学院進学をはじめとするさまざまな学習の場を提供しています。

IUHW Graduate School Information

国際医療福祉大学大学院

医療福祉専門職として活躍中の卒業生のみなさん、
大学院でさらなるレベルアップをめざしませんか!
本学卒業生は入学金が免除となります。
本学グループ職員対象の奨学金制度もあります。

「働きながら大学院で学びたい」社会人が学びやすい3つの特長

①キャンパス　大田原、東京青山、小田原、熱海、福岡、大川に6つのキャンパスを開設しています。

②カリキュラム　多くの授業を平日の夕方以降と土曜日の昼間に行っています。

③同時双方向遠隔授業　複数のキャンパスでリアルタイムに受講できます。質問やディスカッションといった同時双方向のコミュニケーションが可能です。

TOPICS 2015年度「医療福祉教育・管理分野」開設

保健医療に関する教育機関、医療機関、福祉施設における教育者、管理職を養成する分野です。保健医療に関する教員をめざす人、医療福祉施設の管理職をめざす人、また医療福祉における教育者・管理者でスキルアップをめざす人などが対象です。

詳細は大学院ホームページをご覧ください。

http://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/

2015年度 入学生募集

学内推薦入試・入学金免除・奨学金制度あり
（本学卒業生及び卒業見込者対象）

国際医療福祉大学大学院の課程編成

医療福祉学研究科

修士課程

保健医療学専攻
- 看護学分野
- ナースプラクティショナー養成分野
- 助産学分野
- 理学療法学分野
- 作業療法学分野
- 言語聴覚分野
- 視機能療法学分野
- 福祉支援工学分野
- リハビリテーション学分野
- 放射線・情報科学分野
- 生殖補助医療胚培養分野
- 医療福祉教育・管理分野

医療福祉経営専攻
- 医療経営管理分野
- 診療情報アナリスト養成分野
- 医療福祉国際協力学分野
- 先進的ケア・ネットワーク開発研究分野
- 医療福祉学分野
- 医療福祉ジャーナリズム分野

臨床心理学専攻

博士課程

保健医療学専攻
- 看護学分野
- 助産学分野
- 理学療法学分野
- 作業療法学分野
- 言語聴覚分野
- 視機能療法学分野
- 福祉支援工学分野
- リハビリテーション学分野
- 放射線・情報科学分野
- 生殖補助医療胚培養分野
- 医療福祉経営学分野
- 診療情報管理・分析学分野
- 医療福祉国際協力学分野
- 先進的ケア・ネットワーク開発研究分野
- 医療福祉連携学分野
- 医療福祉ジャーナリズム分野
- 医療福祉心理学分野

薬学研究科

博士課程（4年制）

医療・生命薬学専攻

薬科学研究科

修士課程

生命薬科学専攻
- 生命薬学分野
- 医療薬学分野

大学院入試に関するお問い合せは入試事務室まで（TEL：0287 - 24 - 3200）

学べる!役立つ!究める!動画サイト。医療・福祉・介護のエキスパートのあなたへ

医療福祉eチャンネル http://www.ch774.com　好評配信中

主な配信番組

●理学療法分野
呼吸リハビリテーションの有用性・汎用性

●作業療法分野
第51回作業療法全国研修会(岩手)

●言語聴覚分野
摂食・嚥下リハビリテーションの実際

●介護・福祉分野
自立支援型ケアマネジメント・自立支援介護2013

●医療・福祉・経営実務
アベノミクス下の医療、介護の経営と人材育成

●厚生労働省情報
全国介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議（11/10開催）※無料配信
障害保健福祉関係主管課長会議（11/4開催）※無料配信

●乃木坂スクール
脳と心のサイエンス

●受験講座
介護福祉士国家試験実技試験対策DVD（全2巻・テキスト付・送料込み・10,800円）好評発売中!

●情報BOX
納得!カラダ事典
（健康に役立つ情報を専門医がわかりやすくお教えします）

お問い合わせは　フリーダイヤル　0120-870-774　医療福祉eチャンネル お客さま係（月曜～金曜 9:00～17:00）
Eメール info@iryoufukushi.com　〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3 青山一丁目タワー4階

学生向け動画配信サイト「国際医療福祉大学VODライブラリー」http://www.ch774.com/student.php

主な配信番組
●大学授業・副教材
文学論、教育学、ボランティア論、国際医療福祉論、生命倫理、医療福祉教養講義、日本近現代史、音声障害学、PT動作分析論、生理光学、公衆衛生看護活動、産業看護の基礎、視能訓練学、等

広報誌 IUHW 100 号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原キャンパス〕広報委員会
栃木県大田原市北金丸2600-1　☎0287-24-3000
〔小田原キャンパス〕
神奈川県小田原市城山1-2-25　☎0465-21-6500
〔福岡キャンパス〕
福岡県福岡市早良区百道浜1-7-4　☎092-407-0805
〔大川キャンパス〕
福岡県大川市榎津137-1　☎0944-89-2000
編集：大田原キャンパス広報室　☎0287-24-3210
デザイン：野佐デザイン

医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。
国際医療福祉大学
http://www.iuhw.ac.jp/

©国際医療福祉大学2015　Printed in Japan　禁無断転載・複写

先輩に聞く 国家試験受験の傾向と対策 PART 4

今年で4回目。「学生が学生に取材する」をコンセプトに、
同じ学科の後輩が先輩に国家試験対策についてインタビューしました。
受験を目前に控えた上級生が、来年は同じ状況を味わっている下級生に、
この1年間の過ごし方を伝授します。

医療福祉学部 医療福祉・マネジメント学科 Department of Social Services and Healthcare Management

回答者　4年生
比企瑞貴さん(左)
(介護福祉コース)
福島県立白河旭高校出身
立石真里菜さん(右)
(精神保健福祉コース)
栃木県立那須拓陽高校出身

第17回 精神保健福祉士国家試験
2015年1月24日実施
第27回 社会福祉士国家試験
2015年1月25日実施
インタビュー 2015年1月8日

インタビュアー　3年生
髙橋伸明さん
(社会福祉コース)
北海道浦河高校出身
立石みゆいさん
(精神保健福祉コース)
埼玉県 浦和明の星女子高校出身

Q 国家試験を意識し出したのはいつ?

比企　社会福祉士の実習、卒論と続いたので、11月くらいから焦り出した。
立石真　精神保健福祉士の実習、就職試験、卒論が終わってからなので、私も11月。

Q それまでに心がけていたことは?

比企　二つのことを同時進行できないタイプなので、そのときの課題に集中していた。
立石真　私も実習の準備が忙しくて、国試の勉強どころではなかった。

Q その時期の模試は大変だった?

立石真　最初はひどい結果だった。自分の実力がわかって、ショック療法みたいだった。

Q 自分を元気にさせたいときにすることは?

立石真　8匹飼っている猫と遊ぶこと。
比企　動物は癒されるよね。それと、私は時間を決めて好きな本や漫画を読むこと。

Q 効率の良い勉強法は?

立石真　ひとつずつ問題を解いていくのは果てしないと思って、ワークブックから始めた。それとノートに書くと、きれいに書こうとしてしまう性質(たち)なので、単語帳を使っている。
比企　最初、参考書を見たら、範囲が広くて手がつけられなかった。そこで、過去問を5回分くらい解いて傾向をつかんだ。そして、わからないところは参考書に戻った。暗記のために単語帳を使っているのは私も同じ。
立石真　覚えたら解く、という順番がいい。インプットとアウトプットを繰り返すと頭に入る。

Q 一日の勉強時間は?

比企　授業のない日は8時間。初めはだらだらと長くやってしまい、頭に入らず先生に相談して、8時間と決めて集中するようにした。それと、本番に合わせて、夜型を朝型にした。
立石真　学校にいる間に集中。昨夜も11時まで図書館にいた。そういうときは家ではオフ。

Q 今年から取り入れた外部講師による講義の感想は?

比企　わかりやすいし、覚えるポイントも教えてくれるのでありがたい。
立石真　そう。12月中なら、もっとよかったかも。

Q これから伸ばす分も含めて、自分で思う合格率は?

比企・立石真　100%をめざします!

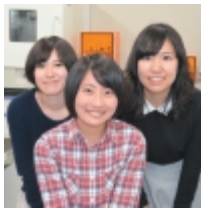
●明るい雰囲気のインタビューになりました。終わってからも4人で30分以上話を続けていたので、3年生はさらにいろいろなアドバイスをもらえたかもしれません。4年生は本番を控えたこの時期に、ちょうどいい気分転換になったでしょうか。

薬学部 薬学科 Department of Pharmaceutical Sciences

回答者　6年生

佐藤那美さん(前左)
宮城県 常盤木学園高校出身
佐藤朱美さん(前右)
栃木県立宇都宮中央女子高校出身
佐藤詩織さん(後左)
福島県 日本大学東北高校出身
栗山麻衣さん(後右)
栃木県 宇都宮文星女子高校出身

第100回 薬剤師国家試験
2015年2月28日・3月1日実施
インタビュー 2014年12月25日



インタビュアー　5年生
服部陽香さん(左)
栃木県立鹿沼高校出身
髙田朋子さん(中)
栃木県立矢板東高校出身
見木沙織さん(右)
京都府立綾部高校出身

Q CBTと国試の勉強の違いは?

那美　CBTは暗記だったけど、国試の勉強はきちんと理解していないと進めない。
詩織　実務実習を経験したあとだから、国試の勉強は病院などでの体験にからめやすい。

Q 実務実習は国試の勉強にも役立つ?

那美　とても役立つ! 具体的には、インフュージョンポンプの使用法などの理解が深まった。

Q 勉強のしかたで気をつけたことは?

詩織　科目ごとではなくて、点と点をつなげて広げていく感覚になっていったのは確か。
麻衣　つなげないと面にならないよね。まだなってないけど。
朱美　そう。「治療」をやっていても「薬理」や「生物」を見るようになるから、図書館に行くときも、教科書を全部持っていきたくなる。

Q 苦手科目の克服方法は?

麻衣　克服していないかも。授業をちゃんと聞くのが一番かもしれない。
那美　問題をたくさんやった方がいいかどうかも、科目や先生によって違ってくる。

Q 対策授業でどのくらいカバーできる?

朱美　授業の内容を理解したうえで復習すれば点数は上がるけど、時間がなくて、それがなかなか徹底できなかった。
詩織　勉強するきっかけにはなっている。対策授業なしで自分で全部やろうとしても無理。まんべんなくカバーできるのもありがたい。

Q 卒業試験は大変ですか?

詩織　月に1回テストがあるので、ひとつが終わるとすぐに次のテストが来る感覚になり、モチベーションを維持するのが大変だった。

Q 5年生までにやっておくことは?

朱美　実務実習で担当した患者さんで学んだことには、詳しくなっているのがわかる。
麻衣　実務実習でやったことは自分の体験だからよく頭に入っている。これはしっかり振り返ってまとめておくと必ず役に立つ。

●5年次での実務実習の重要性を話すうちに、みんなの意見が、「そう言えるのも1年から4年の座学の積み重ねがあったから」、「結局、6年というスパンでいかに学んできたかということが最後に試される」ということに集約されていきました。
他学科より2年長い6年間の最後を迎えている緊張感も伝わってくるインタビューでした。自分の国試合格率予想は全員が、「気持ちは100%!」